

TOTO水環境基金

2019年度 助成先団体活動報告

2019年4月～2020年3月(第12・13・14回)





TOTO水環境基金

TOTOグループは、水まわりを中心とした、豊かで快適な生活文化を創造することで、社会の発展に貢献する企業を目指しています。持続可能な世界の実現のためには、TOTOグループの果たすべき役割である節水技術の追求とともに、地域の事情に精通し、地域を支える団体の活動が欠かせません。そこで、TOTOグループは2005年度に「TOTO水環境基金」を設立し、水にかかわる環境活動に継続して取り組む団体への支援を続けています。企業による一時的な物資や資金の支援だけでなく、団体を支援することで持続的な発展を目指しています。



想いを同じくするパートナーを探して

助成先団体の選考にあたっては、TOTOグループ社員から選出された選考員が応募団体の方と面談をし、「水環境にかかわる地域課題を地域の方々と共に解決したい」という想いを伝えています。そのうえで、応募団体の活動の詳細やどのような想いを持って活動されているのかを確認し、「地域に根差した活動となりえるか」「一過性の活動ではなく、継続性があるか」という点を中心に選考を行い、想いを同じくする団体と活動をスタートします。



地域に根差した継続的な活動を支援

途上国では、水不足や劣悪な衛生環境により、数多くの人びとが命を落としています。また、環境保全、貧困、教育、ジェンダー平等の実現などの様々な課題を抱えています。このような状況において、特に衛生環境の課題解決には、一時的な水まわり器具などの物資や資金などの提供だけでなく、維持や管理の仕組みを根付かせるために、継続的に現地を支え、衛生的な生活環境の重要性を伝えていく活動が欠かせません。TOTO水環境基金は、このような活動を行う団体を支援することで、持続的な発展を目指しています。



地域の一員として共に課題解決に取り組む

TOTOグループでは、地球環境に貢献するボランティア活動を「グリーンボランティア」と称し、TOTOグループ社員の参加を促しています。TOTO水環境基金助成先団体の活動にもTOTOグループ社員がボランティアとして積極的に参加するとともに、一般市民の方々へも参加を呼びかけています。助成期間が終わっても情報交換やボランティア参加などを通じ、助成先団体をはじめとする地域の皆様との交流は続いており、年々活動の輪が広がっています。

また、助成先団体のネットワークづくりや活動のステップアップ支援を目的として、「助成先団体交流会」を開催しています。団体の方々と助成活動に関わるTOTOグループ社員が一堂に会して、助成先団体による事例発表、懇親会などの交流を図ります。こうした活動は、TOTOグループ社員の社会貢献・地域共生に対する意識の醸成と社会貢献活動へ参画する“きっかけ”となっており、このプログラムを通じた地域とのコンタクトの積み重ねが、TOTOグループと地域社会との共生につながっていくと考えています。



みんなの想いを反映して

助成金額は、「お客様」に購入いただいた節水商品による節水効果、「株主様」の株主優待制度による寄付、「TOTOグループ社員」によるボランティア活動の参加人数を基に算出し、さらにTOTOがマッチングすることで決定しています。ステークホルダーの皆様の環境貢献へのかかわりが増すほど、「TOTO水環境基金」の助成金が増えていく仕組みです。



お客様との 関わり

お客様

お客様に前年度に購入していただいたTOTOの節水商品について、旧タイプの商品と比較した際の「節水効果」を金額に換算し、水環境基金の助成金算出のベースとします。

株主様

株主優待メニューのうち「水環境基金への寄付」を選択された株主様分の株主優待品相当額(2,000円)を助成金算出のベースとします。

社員

TOTOグループでは、植樹や地域清掃などの環境に関わる社会貢献活動を「グリーンボランティア」と称し、TOTOグループ社員の参加を促進しています。前年度にグループ社員をはじめ家族やお取引先が参加したボランティア活動の実績を助成金算出のベースとします。

環境貢献に応じて基金へ拠出

お客様	節水商品による節水効果
株主様	株主優待制度による寄付
社員	ボランティア活動への参加人数
TOTO	上記3つの拠出へのマッチング

節水商品をご購入
いただく



TOTO水環境基金の しくみ

—すればするほど広がる輪—

環境意識の
向上

地域社会
との協働



協働で課題解決する

TOTOグループ社員がボランティア参加するとともに一般市民の方々へも参加を呼びかけ

市民団体・NPO・NGOを助成

地域に根差した水にかかわる環境活動を支援

- 国内** 水環境や生物多様性の保全・再生につながる実践活動
- 海外** 水資源保護や衛生的かつ快適な生活環境づくりに向けた実践活動

TOTO水環境基金
へのアクセスは
ココから



2019年度助成活動の成果

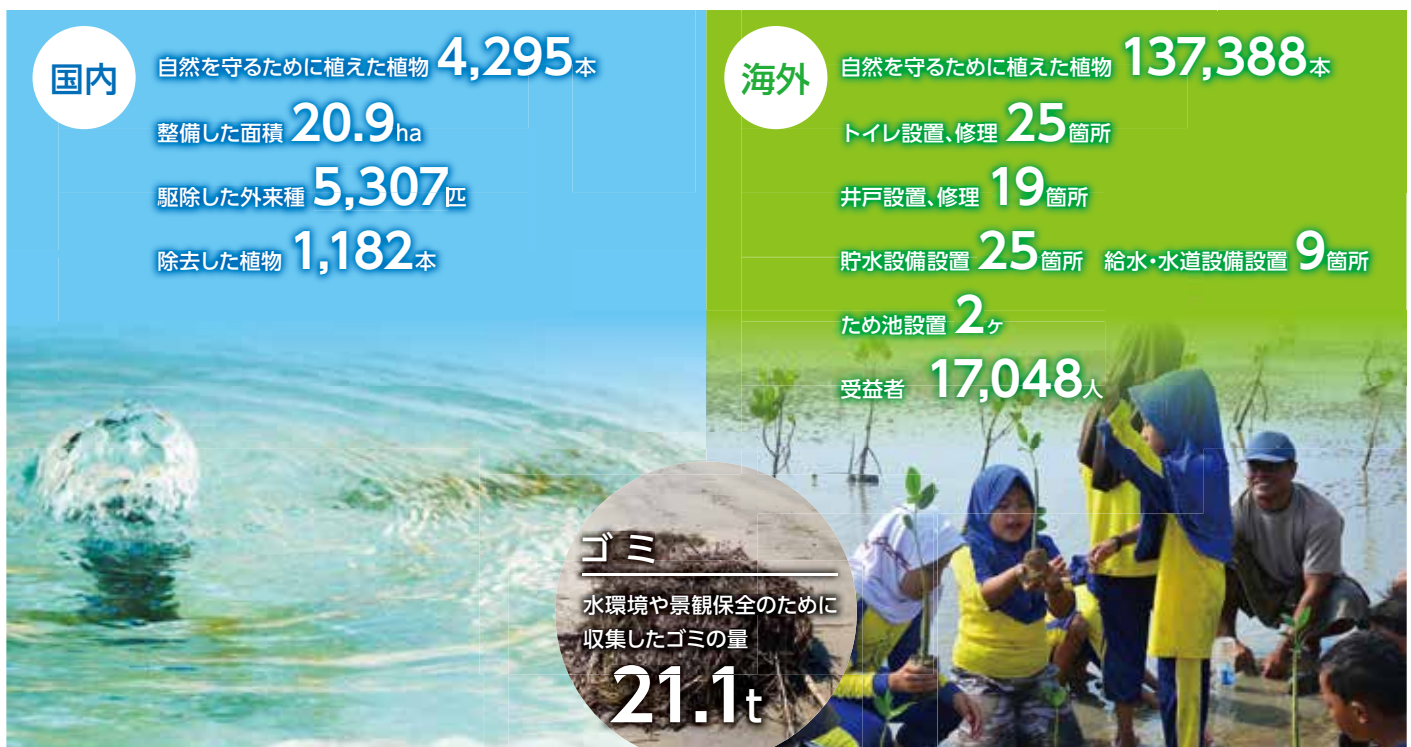
助成金 総額 **4,182.4**万円 運営経費 **543.1**万円

■ 助成によって実施した活動

助成先団体 **39**団体

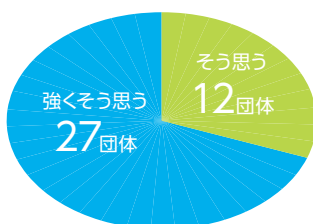
活動回数 **844**回

活動にご参加いただいた人数 **29,762**人
うちTOTOグループ参加人数 **1,145**人

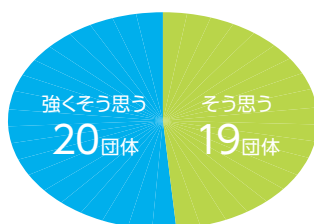


■ 人や地域へもたらした変化

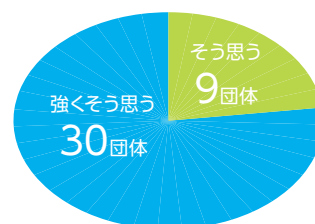
地域課題の改善や解決のために貢献できたと思いますか？



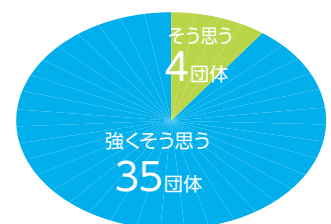
環境に配慮した行動をするべきだという意識の変化を、より多くの人々に与えられたと思いますか？



別の環境課題を見つけた場合に、新たに取り組んでみることを考えてもいいと思いますか？



TOTOは地域・社会課題の解決に貢献していると思いますか？



助成した39団体へのアンケート調査結果より

第1回～第14回の累計

助成先団体:259団体 助成金額:3億3,775万円
活動回数:3,427回(第7回以降) 参加人数:136,174人(第7回以降)

第14回（1年目）助成先団体一覧

No.	団体名	プロジェクト名	主な活動地域	ページ
1	NPO法人 白神山地を守る会	白神山地におけるブナの種子の栽培及び植林活動	青森県鯉ヶ沢町	7
2	NPO法人 森のライフスタイル研究所	八王子市上川の里 森と水のつながり実感プロジェクト	東京都八王子市	8
3	NPO法人 新潟水辺の会	鳥屋野潟の再生から持続発展・ 空芯菜筏プロジェクト	新潟県新潟市	9
4	一般社団法人 海っ子の森	漂着ゴミ分別による農業資源への活用と 廃棄ゴミの削減	三重県尾鷲市、紀北町、伊勢市	10
5	公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会	地黄湿地を拠点とした、市民参加による 湿地生態系の保全	大阪府能勢町	11
6	NPO法人 ハロハロ	沿岸水環境の持続的保全のための、 教育的マングローブ植樹とごみ対策事業	フィリピン ボホール州 アルマー島	12
7	認定NPO法人 難民を助ける会	アフガニスタン難民居住地の、 水源確保と憩いの場整備事業	パキスタンイスラム共和国 ハイバル・パフトゥンハー州 ハリプール郡第1パニアン難民居住地	13
8	認定NPO法人 ICA文化事業協会	インド干ばつ地域での飲料水確保のための 井戸再生事業	インド共和国 マディヤ・ プラデーシュ州ジャブア郡	14
9	認定NPO法人 道普請人	ビクトリア湖ブッシ島での安全な水への アクセス向上計画	ウガンダ共和国 ワキソ県 ブッシ副郡 ブッシ島	15
10	公益財団法人 オイスカ	ジャワ島の学校を対象とした水環境の改善と 環境教育事業	インドネシア 西ジャワ州 スカブミ県	16

第13回（2年目）助成先団体一覧

11	NPO法人 リアスの森応援隊	豊かな海と森を作る自伐林業家の養成	宮城県気仙沼市	17
12	ほたる野を守るNORAの会	「きみとぼくの心の故郷を次世代に！」 田んぼのある里山「ほたる野」を皆さまの心の故郷に！	千葉県習志野市	18
13	一般社団法人 サーフライダー・ファウンデーション・ジャパン	海岸のビーチクリーンを通じた水環境の意識向上	神奈川県鎌倉市・ 藤沢市・茅ヶ崎市	19
14	NPO法人 小網代野外活動調整会議	小網代の森「やしゃぶし谷戸」における ホタル舞う水辺環境の創出	神奈川県三浦市	20
15	笹尾川水辺の楽校運営協議会	水辺の楽校を拠点とする河川環境整備と 水環境啓発運動	福岡県北九州市	21

第12回（3年目）助成先団体一覧

16	宮城県淡水魚類研究会	仙台市民とともに醸成する水文化復権の流れ	宮城県仙台市	22
17	わたらせ未来基金	渡良瀬川が繋ぐ上・下流域 環境保全再生プロジェクト	栃木県 群馬県 埼玉県 茨城県	23
18	八千代市ほたるの里づくり実行委員会	生物多様性の基地として ～目指そうホタルの自生～	千葉県八千代市	24

19	NPO法人 森のライフスタイル研究所	千葉県九十九里海岸防災林の再生 ～海岸林の機能強化をめざして	千葉県山武市	25
20	白子川源流・水辺の会	白子川源流域の湧水量と 水質の回復による水辺環境の再生	東京都練馬区	26
21	DEXTE-K (でいくてつく)	西なぎさ発:東京里海エイド	東京都江戸川区	27
22	NPO法人 海の森・山の森事務局	独自メディアで発信!大岡川クリーンアップ大作戦	神奈川県横浜市	28
23	一般社団法人 金山里山の会	水と緑の輝く里山プロジェクト	富山県射水市	29
24	大富山を愛する会	大富山湿地の涵養と保護及び 美佐野街道ふれあいの場所整備	岐阜県土岐市	30
25	NPO法人 家棟川流域観光船	家棟川・童子川・中ノ池川に ビワマスに戻すプロジェクト	滋賀県野洲市	31
26	NPO法人 ゴミンゴ・ゴミ拾いネットワーク	島ゴミプロジェクト ー離島に流れ着く漂着ゴミ拾いー	和歌山県友ヶ島、兵庫県家島	32
27	NPO法人 川塾	かつばの川そうじ	徳島県阿波市	33
28	東朽網校区まちづくり協議会	水と緑の美化プロジェクト	福岡県北九州市	34
29	NPO法人 改革プロジェクト	Yの字作戦2019	福岡県宗像市	35
30	津古ふるさと会	津古の住環境に溶け込む宝珠川の清流再生と維持	福岡県小都市	36
31	NPO法人 水辺に遊ぶ会	生きもの、子ども、自然が元気な 中津干潟みらいづくり活動	大分県中津市	37
32	関の江海岸の自然を守る会	関の江海岸の自然を守る会	大分県別府市	38
33	NPO法人 おおいた環境保全フォーラム	海浜生態系再生プロジェクト ～命をつなぐ海岸の復活をめざして～	大分県佐伯市	39
34	一般社団法人 日本スキムボード	ecoプロジェクト宮崎～アカウミガメとの共存～	宮崎県宮崎市	40
35	NPO法人 イカオ・アコ	水源の森を守り、学校・地域に水を届けよう	フィリピン 西ネグロス州シライ市、 ギバラオン村シバト地区	41
36	World Assistance for Cambodia and Japan Relief for Cambodia	カンボジア農村地域の植樹活動及び環境教育	カンボジア ステュングトゥレング州・ ラタナキリ州・モンドルキリ州	42
37	認定NPO法人 アジアチャイルドサポート	「水で支える暮らし」と「未来へつなげる水環境」	ミャンマー マンダレー地域 チャ・ブ・ダウン地区 ウン・ミン・カン村	43
38	Deepak Foundation	Water Conservation	インド グジャラート州 ハロル・カロール地区 ティンビ村、ラダンブル村	44
39	モザンビークのいのちをつなぐ会	モザンビーク・ペンバにおける公衆衛生プロジェクト	モザンビーク共和国 カーボデルガド州ペンバ	45

1 NPO 法人 白神山地を守る会

〔代表者〕 永井 雄人

当会は、白神山地のブナの森の復元・再生活動を実施する団体として、1993年白神山地が世界遺産登録した年に発足しました。白神山地では、世界遺産登録の前にブナの伐採があり、現在もかなりの箇所で木々が失われた状態となっています。白神山地の自然遺産を次世代に残していく為に、ブナなどの広葉樹の苗木づくりを行い、植林活動に取り組んでいます。また、自然保全の活動を理解してもらう為のガイドや環境教育活動を実施しています。

- 「白神山地エコロジー体験ツアー」の実施
毎年春・夏・秋に開催。白神山地の自然を学び、体験しながら歩くトレッキングツアー
- 「森の復元活動」の実施
ブナの苗木を植林し、ブナの森を復元・再生する活動
- ボランティアガイド養成講座の推進
- 個々の白神山地の自然体験・登山のコーディネートおよびガイド派遣
- 白神山地エコロジー講座（環境教育）の実施
- 「白神山地を守る会ニュースレター」の発行
季節毎の白神山地に関する情報や、イベント情報の発信
- 白神山地に関する書籍等の紹介、販売



陸奥湾の海と山をつなぐ植樹祭

白神山地におけるブナの種子の栽培及び植林活動

■活動地域：青森県鰺ヶ沢町

■助成期間（年）： **1**

2018年度の秋にブナ林では、7年ぶりに種をつけることができ、2018年の秋蒔きと2019年の春蒔きで、1万粒を植えることができました。残念ながら、ビニールハウスの一部のコンテナ苗の一部は、猿害を受けましたが、8,000ほどの稚樹が、秋には苗木として成長し、秋の根切れ作業（根を強くする作業）を終え、苗床で眠っています。今年は雪不足で、本来ならば深い雪の中で、地面の中も日差しは届かなくても暖かい環境のはずが、逆に冷たい風と、雨で先っぽの冬芽へのダメージがでて、春に正常に発芽してくれるかどうか気がかりです。これはブナ林全体というよりは、まだ1年程度のベイベー苗木なので特に心配ですが、全体として一連の作業を順調に終わることができました。

- 活動回数／100回
- 活動参加人数／520人
- 植樹／460本（ブナ・コナラ・イタヤカエデ）
- 整備した面積／1,000㎡
- ゴミ回収量／100kg

現地の声

今回の苗木づくりの成功で、平内町の陸奥湾のホタテを高温から守る植樹祭にも苗木を使うことができます。陸奥湾の海水温の上昇で、大量のホタテの壊滅を防ぐ植樹祭の広葉樹の苗木を提供することができることを嬉しく思います。



コンテナ苗作り



ブナの補植作業



苗床作業

2 NPO 法人 森のライフスタイル研究所

〔代表者〕 竹垣 英信

森林と触れ合った体験が乏しく、森づくりへの理解が深まっていない多くの人々に対して、楽しさを取り入れた多彩な活動を展開するために、2003年に設立しました。ごく普通の人々が当たり前のよう森づくりに関心を持てる社会を創造し、もって、森林の育成・保全に寄与することを目指して活動を行っています。

●森林保全活動

津波の被害を受けた海岸防災林や山火事跡地、特別緑地保全地域など人手を必要としている森林の保全活動

●シングル世帯の子ども向け自然体験活動

シングル世帯の子どもたちの自然体験の企画創出を通じて、子どもの健全な発育のサポート

●企業の社会貢献活動のサポート活動

間伐材の活用を進めたい森林側の要望と社会貢献活動の充実を図りたい企業側の要望を解決するための「林産物活用プログラム」を企画開発



ボランティア×音楽フェス「RockCorps」にプログラム提供

八王子市上川の里 森と水のつながり実感プロジェクト

■活動地域：東京都八王子市上川の里特別緑地保全地域

■助成期間（年）： **1** **2** **3**

本プロジェクトは、40年間管理が行き届かず暗い林内になってしまった八王子市上川の里山に手をくわえ、明るい森へと変えていく環境活動です。また、当団体が耕作を取り戻した田んぼの維持活動も行うことで、森と水とのつながりを理解できる人材の育成も担っています。

今年度は、5回の活動、230名の参加者とともに、里山が失った生物多様性と水源かん養機能の回復と維持、約1haと約1haの田んぼの機能維持を通じて40kgの餅米の収穫ができました。

参加者からは、「環境保全活動の一連のプロセスが理解でき、貴重な体験ができました。また、山には木がたくさんあればあるほどいいと勘違いをしていましたが、そうではないことも知ることができました。」との感想が寄せられました。

●活動回数／5回

●活動参加人数／230人

●うちTOTOグループ社員／54人

●整備した面積／9,000㎡

現地の声

<参加者>

・一度も経験のない田植えを楽しみにやってきました。田んぼの土は硬めのところが時々あって、苗を差し込みずらかったり、まっすぐに植えていく難しさを知りました。

・八王子に住んでいますので、この場所の前の道は何回も通っていました。でも、どういう場所なのかかわからずにいたところ、子どもと一緒に参加できることはないかと検索していたらここがヒットしてすぐに申し込みました。



一列に並んでみんなで田植え。餅米の苗を植えました



稲架掛けした稲



大人数で手をかけるとあっという間に整備されていきます

当会は、1987年にドキュメンタリー「柳川堀割物語」の上映会&シンポジウムの開催を機に、身近にある川を学習する「水辺を考える会」として発足しました。その後、ドブ川通船川の再生に取り組み、2002年にNPO法人となりました。信濃川を鮭の遡上・降下する大河に復活させる活動など、幅を広げ、新潟の水辺環境の改善を行ってきました。現在は、「潟版」の持続可能な開発目標(SDGs)として、水良し、住んで良し、来て良し、商い良し、子ども良しの「五方良し」を掲げ、環境資源循環の空芯菜湖上栽培や子どもたちの潟ウォーク、エジソンメガホン実験などを行い、人力・帆力の浮島航行や舟のシェア利用プラットフォームの実現をめざし活動しています。

- 鳥屋野潟がつてんプロジェクト
空芯菜湖上竹筏栽培、浮島実験、環境舟運など潟の環境資源の循環利用
- 通船川掃除と緑地管理活動
年4回船による川掃除と河口の森周辺の草刈
- 鮭の発眼卵の河床埋設放流
鮭の生態的な自然復活をめざして放流
- 身近な水環境全国一斉水質調査
県内数十団体の協力で実施
- 会報「新潟の水辺だより」発行
年2回300部を会員や関係者に配布
- 水辺の会シンポジウム開催
年末定例で1年の総括と次年度に向けた方針を協議
- つくり沿川まちづくりの会(旧通船川・栗ノ木川下流再生市民会議)
開催支援



通船川中流・三代交流力ヌー乗船体験会を支援

鳥屋野潟の再生から持続発展・空芯菜筏プロジェクト

■活動地域：新潟県新潟市

■助成期間(年)： 1 2 3

空芯菜の湖上栽培活動は、2017年の実験から2018年の本格栽培を経て3年目になります。結果、水質改善、潟食材、浮き漁礁、生態環境改善、環境学習など多様な効果が見えてきました。2019年には中原八一新潟市長から12次産業化奨励賞を頂き、さらに毎日新聞地元版掲載、中学生も参加の筏づくりワークショップ、空芯菜は、市施設の直売所などでの販売、朝市直売、料理教室やメニュー開発、空芯菜の加工粉化、企業の空芯菜オーナー、公民館やFMラジオ、他のNPOなどでの試食付き講演、市や県の環境フェア出品、川の全国大会での発表と試食提供などでアピールしました。また、大学教授による空芯菜の環境改善力の試算や学生の空芯菜ヒゲ根の生態研究調査、新潟市主催の潟シンポジウムでの発表、当会の水辺シンポジウムでの報告などの取組をしてきました。中でも地元小学校4年生児童131名の空芯菜をテーマにした総合学習の成果発表が大きな出来事でした。学習支援に対する131個の感謝状には児童の成長の跡が見られ感動しました。

- 活動回数／43回
- 活動参加人数／1,950人
- うちTOTOグループ社員／30人
- 植樹／1,200本(空芯菜[6月～10月湖上筏])
- 整備した面積／120㎡

現地の声

<参加者>

- ・空芯菜の収穫では、意外に成長が早く驚きました。また、浄化能力が高く潟底が見えたことに感動しました。
- ・60歳を超えてはじめての体験でした。農家生まれなので、どこことなく懐かしかったです。昨年畑で空芯菜を作り、夏場の野菜不足に主婦としてはたすかりました。鳥屋野潟の自然を守ることの活動も聞けて良かったです。ガンバってください。



潟中央の浮島まで竹筏乗りと潟ウォーク



小学校の鳥屋野潟現地学習会



竹林を間引いて竹筏で活かす環境循環にトライ

4

一般社団法人 海っ子の森

〔代表者〕 山下 達巳

当法人は、海の森づくりをテーマに、2005年から活動を始め14年が経過しました。当初の目的であった磯焼け対策であるアラメ・カジメの稚苗の植林に加え、海岸・海中清掃・ゴミの持ち帰り活動などを実施し、海の環境負荷を減らす活動を行ってきました。その後、多方面からの参加者や技術者との交流の中から、海洋ゴミ（海岸の海ゴミ分別と家庭内食品廃棄ゴミ）の削減と農業資源への活用取組を行うようになりました。具体的には、ワイン用葡萄畑や安納芋畑等への貝殻、海藻肥料の施肥などです。最近、海洋ゴミの問題が数多く報道されています。海岸漂着物には海藻類などの海の資源とプラスチックゴミなどがあり、分別による資源化を重要課題として新たな視点で活動に取り組んでいます。

- 海・山・川の自然と水環境保全活動
魚付き林の保全、海岸・河川の清掃、熊野古道の歩道ルート of 清掃・整備
- 海の植林（藻場再生事業）活動
市民および漁業者が自らの手でできる自然石を使ったアラメ、カジメの植林
- 活動参加者との環境学習、講演会の実施
- 海洋ゴミ（海岸の海ゴミ分別と家庭内魚介類廃棄ゴミ）の削減と農業資源としての貝殻、海藻肥料の施肥活用
- 低炭素杯（脱炭素チャレンジカップ）での活動内容の発表



ボランティアダイバーによるアラメ・カジメの稚苗の植林

漂着ゴミ分別による農業資源への活用と廃棄ゴミの削減

■活動地域：三重県尾鷲市、紀北町、伊勢市

■助成期間（年）： 1 2 3

漂着ゴミ分別による農業資源への活用と廃棄ゴミの削減に取り組んでいます。

具体的には、磯焼けがすすむ沿岸に、中間育成をしたアラメ・カジメを植林し、藻場の再生を目指しています。これまで、藻場再生は海の中に巨大なテトラポットを沈めるなど大規模事業として行われてきましたが、私たちの植林は、自然石にアラメ・カジメを取り付け、海の中に沈めるという方法です。また、三重県鳥羽市のいくつかの漁協では、漁師さん自らが藻場再生に積極的に取り組んでいます。そこで、私たちが培ってきたノウハウと技術を役立てていただけるよう、自然石を利用した植林方法を指導しながら一緒に植林を行うなど技術支援・活動支援を行っています。

自分たちの手で行えるというのが大きな特徴です。さらに、三重県紀北町の沿岸に「海のピオトープ」を作り、子どもたちや地元の方々に対して伊勢海老の稚海老やあわびの稚貝の放流、海の植林、海岸の清掃活動などを通じて環境教育を行っています。

- 活動回数／8回
- 活動参加人数／138人
- うちTOTOグループ社員／37人
- ゴミ回収量／130kg

現地の声

＜団体代表＞

我々の活動のポリシーである「楽しみながら活動の成果を上げる、継続可能なテーマで活動する、常に新しいアイデアに挑戦する」が参加者にも定着してきたと思います。行事計画を提案した段階で、内容に対する意見をいただけることが多くなってきたこと、および新しい取組を評価していただけるようにもなりました。



海ゴミと肥料用海藻収集



貝殻肥料施肥の安納芋収穫イベント



気象予報士による講演

当協会は、大阪府内に残された貴重な湿地や動植物をはぐくむ自然環境を保全するとともに、身近な街の緑化を市民の参画や協同による活動を主体として推進するために、大阪府により1989年に設立されました。「みどりの未来をわたしたちの手で」をキャッチフレーズにみどり豊かで快適な環境づくりに取り組んでいます。

生物多様性の保全が世界の主流となる中で、里山をはじめ湿地環境でも活動を展開しています。また、近年は「森林ESD」（持続可能な社会づくりに向け、森林・里山を活用する人材育成システム）にも注力しています。今後も緑とのかかわりが希薄になった都市部において、新たな自然とのかかわり方を発信していきます。

● 貴重な動植物や自然環境の保全

近年は生物多様性豊かな能勢での活動に注力

● 「緑の募金」

大阪府の取りまとめ団体として募金を呼びかけるとともに、「木材の利活用促進」「森林ESDの推進」などについて理解を深めるため、府民を対象としたイベントヘクラフトブースを出展



歌垣銀寄栗の森 キックオフイベント

地黄湿地を拠点とした、市民参加による湿地生態系の保全

■活動地域：大阪府能勢町地黄区

■助成期間（年）： 1 2 3

●活動回数／25回

●活動参加人数／190人

●うちTOTOグループ社員／3人

●整備した面積／3170㎡

●動・植物駆除／ウシガエル4匹

湿地特有の希少生物が生息する地黄湿地において、市民ボランティアによる湿地の整備、生き物のモニタリングが継続できる仕組みづくりを目指しています。

今年度はこれまで課題であった保全活動の定例化により、定期的に参加される方が増え、「市民ボランティアによる保全活動」の体制づくりが一歩進みました。定例化により活動回数が増え、モニタリングや冬期の保全活動を行うことができました。

また、地元高校生の「地域と生活」授業で保全活動の紹介や湿地その物やそこに住む生物の観察を現地で行いました。学術機関と連携した科学的な生物調査を行い、保全活動に反映させながら生物多様性豊かな湿地を保全しました。

現地の声

＜参加者＞

- ・今まで様々な場所で保全活動に参加する事はありませんでしたが、本腰を入れて保全従事者として継続して参加するのは初めての経験でした。年間スケジュールが日付単位で定まっており、「この時期は何々をする」が分かりやすかったため参加しやすかったです。
- ・実際に湿地に入って植物の調査をすると、事前に想像していた以上に様々な珍しい植物種が、湿地特有のものから本来深山で多く見られるものまで多く見ることができ、心を打たれました。



シンポジウム



モニタリング調査



定例保全活動

6

NPO 法人 ハロハロ

〔代表者〕 村社 淳

当団体は、2008年よりフィリピン・パナイ島のNGO LOOBのフェアトレードボランティアへの関与を経て、活動地域や裨益者を拡大し、生計向上から教育まで広く地域発展事業を展開するNPOとして2012年に法人化されました。

誰もが魅力的に働き生きることのできる社会を目指し、現在はフィリピンと日本の人々のパートナーシップに則り、手工芸やマイクロクレジットなどを通じた生計向上事業、幼稚園から大学までの奨学金制度の運営などの教育支援事業、環境美化や国際理解への推進などの啓発事業を行い、相互に豊かな社会づくりに参加出来る人材や組織の育成を行っています。

【生計向上事業】

- ・フェアトレード
マニラ貧困地域で廃材を活用した雑貨制作、セブ貧困地域で自然素材アクセサリーブランドを設立
- ・マイクロクレジット
セブ・ボホール全3事業地で、少額資金融資を管理運用可能な住民組織育成

【教育事業】

- ・マニラとセブ全3校の幼稚園を運営・管理支援
- ・マニラとセブで大学奨学金制度を運営し、大学への進学・継続に貢献

【啓発事業】

- ・セブ・ボホール2事業地において、行政と市民が連携し、ごみ回収システムと草の根のごみ拾い活動をリンクさせた環境美化活動を展開
- ・スタディツアーを通し、フィリピンと日本相互の国際理解を促進



セブの幼稚園の様子

沿岸水環境の持続的保全のための、教育的マングローブ植樹とごみ対策事業

■活動地域：フィリピン ボホール州アルマー島

■助成期間（年）： 1

当プロジェクトでは、フィリピン、アルマー島の海藻農家組合が主体となり沿岸環境の改善に取り組みました。昨年度は、植樹活動とごみ回収活動を行い、目標を達成することができました。今年度はその活動を維持するとともに、沿岸部の自然が持続的に保護されることを目的として、次世代を担う子ども達への環境教育を行いました。組合の構成員たちは島をあげての活動となった今年度のプロジェクトに意欲的に取り組み、昨年度の経験から円滑なプロジェクトの遂行に貢献しました。沿岸部の環境が改善されるだけでなく、各個人の技術や意識が大きく向上したことがこのプロジェクトの成果の一つだと捉えられます。

- 活動回数／47回
- 活動参加人数／1,646人
- 受益者数／1,208人
- ごみ回収量／2,829kg
- 植樹活動／71,410本（マングローブ）
- 設備設置／ごみ分別集積所（コンクリート）1基

現地の声

<団体代表>

小学校と協同で環境教育を行なったことを大変有意義に感じました。昨年は地域の組合員だけで実施しましたが、その経験を活かせるからこそ小学校と連携した植樹活動が行えるものだと考えています。3年という期間を与えてくださったおかげでプロジェクトが次々に発展し、活動の幅が広がっています。そして来年は3年目で最後の1年です。これまでの2年間を無駄にせず、この活動がずっと存続していくことを目指していきたいです。



ASFA が小学校で行なった環境教育



小学生との合同でのマングローブ植樹の様子



地域清掃活動

7 認定 NPO 法人 難民を助ける会

【代表者】 長 有紀枝

当会は、日本の善意の伝統に基づき1979年に設立された団体であり、「一人ひとり多様な人間が、各々の個性と人間としての尊厳を保ちつつ共生できる、持続可能な社会をめざす」というビジョンを掲げて活動しています。また、「困ったときはお互いさま」をミッションとし、紛争・自然災害・貧困などにより困難な状況に置かれている人々に必要な支援を届け、明日の社会が今日よりも豊かで希望の持てるものになるように支援を展開しています。このような活動を日本を含めて世界の人々のご支援を得て実践することを通じ、誰もが世界の平和と安定に貢献する主体たり得ることを示すとともに、少数派の人々が拒絶され、弱者が取り残されないような社会の実現に向けて努力しています。

5つの事業分野を中心に日本を含む世界15カ国で活動

【緊急支援】

ミャンマー避難民支援、アフガン帰還民支援、南スーダン難民支援の他、東日本大震災の復興支援を発災直後から継続

【障がい者支援】

車いす製造・配付、職業訓練校運営、インクルーシブ教育などの実施

【地雷対策】地雷回避教育、被害者支援、地雷除去支援を実施

【感染症対策】母子保健事業や水・衛生保健事業の推進

【啓発活動】日本における訪問学習受け入れ、出張授業などの実施



小学校校庭での地雷不発弾の啓発授業（シリア）

アフガニスタン難民居住地の、水源確保と憩いの場整備事業

■活動地域：パキスタン・イスラム共和国 ハイバル・パフトゥンハー州ハリプール郡第1パニアン難民居住地

■助成期間（年）： 1

当事業は、パキスタン国内のなかでも、特にインフラが脆弱なアフガニスタン難民居住区において、水衛生環境を改善することを目的に行いました。

事業開始前、ハリプール郡のパニアン難民居住地では、ほとんどの住民が、深さ40～50メートルの手押し井戸に水源を依存しており、同井戸の水質の悪さが問題となっていました。そこで、居住地内の空き地に約90メートルの深井戸を掘削し、飲用もできる水質の水を得ることができました。電動モーターで汲み上げた水は、地上に設置した約28,000リットルの容量のタンクに貯水し、備え付けた6つの蛇口から、誰でもいつでも水を汲むことができるようにしました。

また、貯水タンクの周辺は小さな公園として整備しました。これまで、居住地内には子どもたちが、安心して休憩したり遊んだりできる場所がありませんでした。公園ができたことで、取水に訪れた子どもたちがベンチに座って友達と話をしたり、公園内を走り回って遊んだりすることができるようになりました。

- 活動回数／53回
- 活動参加人数／623人
- 受益者数／3,500人
- 設備設置／深井戸1基、給水タンク兼水汲み場1箇所、公園（420㎡）、ベンチ6個
- 衛生教育／38人

現地の声

<受益者>

これまで、難民居住地の中では、水源が限られていて、限られた場所にしかない手押しポンプから水を得ることはとても大変でした。蛇口をひねれば水が出ることによって、小さな子どもたちにとっては、負担が大きく軽減されたと思います。また、子どもたちが楽しそうにこの場所で遊んでいるのを見て、とても嬉しく思いました。居住地に住む住民にとって、きれいな水が得られること、緑がある安らげる場所があることは大変有意義なことです。



衛生啓発プログラムに参加する女性組合メンバー



完成した水汲み場で手を洗う子どもたち



公園の植樹に参加する子どもたち

8

認定 NPO 法人 ICA 文化事業協会

〔代表者〕 佐藤 静代

当団体は、1980年代より途上国を中心に貧困削減、自然環境保護、女性と子どものエンパワーメントなどの国際協力・地域開発事業を行っています。ICAインターナショナル(本部:カナダ)に加盟しており、活動は35カ国のICAネットワークと連携し、実施しています。

「そこに住む住民が、地域の専門家である」と「住民が積極的に地域開発に参加してこそ持続可能な発展が可能である」という信念に基づき、住民参加型の活動を実施することで、文化・社会・経済のバランスのとれた地域社会形成と人材育成を行い、世界が直面している様々な課題の解決を目指しています。

<ケニア>

- ・半砂漠地域の学校での環境教育を兼ねた植林活動
- ・栄養状態改善のための給食配布

<コートジボワール>

農畜複合循環型農業技術を用いた農村開発事業

<ネパール>

- ・震災被災地での生活インフラ復興と住民の生活向上事業
- ・山間部女学生の就学率向上と生理中の衛生状態改善を目指した使い捨てナプキン製造支援と啓蒙教育

<インド>

環境破壊の進む農村部での環境教育を兼ねた植林活動

<ペルー>

災害に強いコミュニティ構築事業の形成のための調査



配布された給食を笑顔で食べる児童達

インド干ばつ地域での飲料水確保のための井戸再生事業

■活動地域：インド共和国マディヤ・プラデーシュ州ジャブア郡

■助成期間（年）： 1

慢性的な水不足に悩まされているインド中西部のジャブア郡周辺3村で、古井戸6基を再掘削と周辺からの砂塵混入と子ども等の落下を防止する防壁を設置し、再生を図りました。本年度は事業2年目のため、活動の計画と実施に当たっては1年目の成果と課題を反映させ、より多くの世帯が利用する井戸の選定、工事前から住民の巻き込み、井戸脇に家畜用水飲み場の設置等を新たに実施しました。結果、1年目よりも井戸利用者や研修参加者は増加し、住民の積極的な活動への参加がみられました。

井戸は乾季の2月時点でも十分な水量があり、住民の長距離・長時間の水汲み労働が緩和されています。また、井戸管理研修3回と井戸周辺の環境美化整備と衛生に関する研修1回を実施したことで、住民の井戸へのオーナーシップおよび衛生と環境美化への意識も向上しています。



完成した井戸に水汲みに来た女性 水が入った甕は10-15kg



歌に合わせて手洗いの練習をする研修参加者



重機を使用して行った掘削工事

- 活動回数／10回
- 活動参加人数／204人
- 受益者数／1,560人
- 古井戸再生／6基
- 衛生教育／43人

現地の声

<受益者>

- ・乾季の40度を超える暑さの中での1km以上の水汲みから解放され、心が楽になりました。
- ・井戸が再生され、研修というものに生まれて初めて参加しました。今までの人生、一度も学校に行ったことがなく、ずっと肉体労働ばかりでしたが、研修で初めて自分用のペンをもらったことが嬉しいです。自分の名前が書けるようになりたいです。研修に参加している他の村の人とも繋がりがもてるので、研修はいつも楽しみにしています。

「住民自身が実施できるシンプルな工学技術で、開発途上国の人々を幸せにしたい」というコンセプトが原点となり、当団体の理事長である京都大学の木村亮教授により「土のう」による道直し技術が開発されました。この技術を人々の手に届ける移転活動は「自分たちの問題は自分たちで解決する」という意識の芽生えにつながります。この意識を世界に広めるため、2007年に当団体が設立されました。住民が自ら汗を流して、普段利用する自分たちの農村インフラ（農道、橋、給水設備など）の改善を行うことによって、人々の生活環境改善に向けたやる気と自信を引き出します。農村の自発的な開発に向けたきっかけづくりをし、世界の貧困削減に寄与することを目的としています。

【土のう工法を用いた道直し】

- ・活動国：28カ国 ・整備した道路：総延長175km以上
- ・研修・作業参加人数：17,000人以上
- ・土のう工法関連ビジネスのサポート

訓練を受けた若者たちによる施工会社立ち上げのサポートおよび当該会社が道路維持管理に関する公共事業に参画するビジネスモデルの構築

【農村インフラ整備】

- ・急坂部：コンクリート舗装、川横断部：桁橋や沈下橋の設置、給水設備の設置など

【その他環境保全】

水源地整備、育苗、植林など



都市スラムにおける道直し訓練（カンパラ市）

ビクトリア湖ブッシ島での安全な水へのアクセス向上計画

■活動地域：ウガンダ共和国 ワキソ県 ブッシ副郡 ブッシ島

■助成期間（年）：1

ブゲラ村とカアバ村に計8基（各10,000L）の雨水集水タンクおよび蛇口を設置し、村の給水率が格段に向上しました。設置したシステムの管理のため、各村9名からなる水利利用者委員会を設立し、今後の維持管理体制を整えました。また、2村に4箇所の育苗場を整備し、住民および小学生は環境破壊につき学び植林の大切さを理解しました。2村にて安全な水利用レクチャーや小学生に対する水衛生レクチャーも実施し、知識を得て自信もつき意識変容に繋がりました。

- 活動回数／11回
- 活動参加人数／2,151人
- 受益者数／2,011人
- 植樹／56,495本（グラベリア、果樹木等9種）
- 設備設置／雨水集水タンク・タンク基盤および蛇口8基、育苗場4箇所
- 衛生教育／375人

現地の声

<受益者>

今まで住民は20リットル500シリング（約15円）で飲み水を購入していましたが、このプロジェクトのおかげで、安全な水へのアクセスが向上しました。また、配布された種子や苗木は地域の気候やアグロフォレストリーに適した種であり、良く考えて選定されていました。



小学校での手洗い指導



村のリーダーと共に植林デモンストレーション



本事業にて整備した育苗場

10 公益財団法人 オイスカ

〔代表者〕 中野 悦子

オイスカ・インターナショナルは、「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界」を目指して1961年に設立されました。本部を日本に置き、現在36の国と地域に組織を持つ国際NGOです。公益財団法人オイスカは、1969年にオイスカ・インターナショナルの基本理念を具体的な活動によって推進する機関として生まれ、主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開しています。特に、人材育成に力を入れ、各国の青年が地域のリーダーとなれるよう研修を行っています。国内では、農林業体験やセミナー開催などを通じた啓発活動や、植林および森林整備による環境保全活動を展開しています。

- 海外開発協力
地域の資源を生かした農業や緑化活動を通じ、持続可能な産業の発展に貢献
- 「子供の森」計画
36の国と地域の約5,200校において、子どもたちを対象にした植林活動及び環境教育を実施
- 人材育成
開発途上国の地域産業を支えるリーダーを育てるため、国内4か所の研修センターにて、アジア太平洋の国々を中心とした青年への農業や女性生活改善の指導などの人材育成事業を実施
- 啓発普及
日本各地で国際理解や環境保全に関するセミナー、農業や森林整備の体験活動、震災復興支援「海岸林再生プロジェクト」、環境教育活動などを実施



気候変動への適応や住民の生計向上を目指した緑化プロジェクトを推進

ジャワ島の学校を対象とした水環境の改善と環境教育事業

■活動地域：インドネシア 西ジャワ州スカブミ県

■助成期間（年）： 1

学校側の都合や長引く乾季の影響でセミナーや植樹など一部の活動の実施が遅れることがありましたが、適宜対応することで予定していた活動をほぼ全て行うことができました。トイレや手洗い場など水環境設備の整備がなされた2つの小学校では、児童・教員とも、これまでのように用足しのために校外へ出掛ける必要もなくなり、子どもたちの教育・衛生環境が大きく改善されました。9月に発生した山火事は、ブニワング小学校の植林地にまで燃え広がり、残念ながら4月に植えた苗木の一部が焼失してしまいましたが、雨季に入った2月に苗木を植え替える補植を行いました。山火事直後は枯死していたかに見えた苗木の多くが葉を焼かれただけで生き残っていたことから、予想よりも補植本数を減らすことができました。

- 活動回数／ 51 回
- 活動参加人数／ 1,975 人
- 受益者数／ 585 人
- 設備設置／水環境設備（トイレ、手洗い場、井戸、水タンクなど）2基
- 植樹／ 3,253 本（マホガニー、スリアン、ランブータンなど）

現地の声

<受益者>

- ・本事業は自然や環境を適切に扱う方法に関する知識を提供してくれ、特に児童にとって大変有益なものです。また、ご支援いただいた水環境設備は学校周辺の地域住民も活用していますが、彼らも同設備の維持管理に協力してくれることで、学校と地域の結びつきが更に深まりました。事業の継続を望みます。
- ・本事業は子どもたちだけではなく教員についても環境保全の意識を向上させるのに大いに寄与してくれました。



設置したトイレは子どもたちが毎日清掃し、大切に活用



教員を対象としたエコセミナー



小学校における紙のリサイクル実習

11 NPO法人 リアスの森応援隊

〔代表者〕 小野寺 誠

気仙沼市は、豊かな森が海洋資源に大きな影響力を持つという「森は海の恋人」運動の発祥の地です。当団体は、森林の適正な整備を推進することにより、環境の保全、向上に資するとともに、森林愛護や自然保護の啓発に関する事業などを行い、もって、公益の増進に寄与すべく設立しました。東日本大震災により沿岸部が壊滅的な被害を受けた当地域から、豊かな海づくりにもつなげる林業の必要性の警鐘を鳴らし、市内外からの林業従事者の拡大を軸とした里山コミュニティを創造することにより、担い手不足の解消、被災地の生業作り、衰退する一次産業（林業）の生業化のモデル作りを目指しています。

- 自伐林業家養成塾「森のアカデミー」開催
森林保全の必要性を啓発し、自伐林業家として林業を生業とする人材を養成する各種林業研修の実施
- 山の日啓発イベント「森森フェスタ」開催
幅広い層への森林保全の啓発イベント。また、生徒・児童を対象とした総合学習支援を要請に応じて実施
- 個人の自伐林業家支援
林業機具や機械のレンタル、林業補助金制度の申請手続き補助など
- 「森ワーカー制度」の展開
人手を必要とする山主と、林業の技術がある人とのマッチング



森林フォーラム

豊かな海と森を作る自伐林業家の養成

■活動地域：宮城県気仙沼市

■助成期間（年）： 1 2 3

国内木材価格の下落に伴い、必要な森林整備（間伐）が行われてこなかった森林を、適性に整備するため、その必要性を啓蒙するイベント「森森フェスタ2019」「気仙沼森林フォーラム」を開催しました。また、適性に整備する自伐林業家を養成するために「自伐林業家養成塾森のアカデミー」（第17期、第18期）を開催しました。間伐する前に必要な刈払機を、本助成で購入することにより、より効率よく事業を進めることができました。

- 活動回数／ 17 回
- 活動参加人数／ 390 人
- 整備した面積／ 58,800㎡

現地の声

<参加者>

- ・代々譲り受けている山を所有していますが、どこかもわからないし、どうすれば良いか迷っていたので、相談できる人がいて有り難いです。
- ・私は移住者で、山は所有していませんが、環境を守る良い活動なので、今後も関わっていきたいと思います。林業技術を身に付けて、間伐作業ができるようになりたいです。



自伐林業家養成塾「森のアカデミー」軽架線研修



森森フェスタ 屋内子ども木工教室



自伐林業家養成塾「森のアカデミー」チェーンソー研修

12 ほたる野を守るNORAの会

〔代表者〕 蔭山 盛久

1992年の団体設立当時、この田園地区は通称「ほたる野」と呼ばれ初夏には平家ほたるが乱舞する斜面林を有する里山でした。1998年頃には近隣の土地造成などの影響でほたるは激減し、高齢化によって田んぼの休耕田化も進みました。そこで、良好な自然環境にしか生息できない「ほたる」をこの里山のシンボルとして、将来に向けて絶滅させないようにすること、休耕田化に歯止めを掛けることを目指してこの地区の環境保護活動を開始しました。この素晴らしい自然環境を次世代の子どもたちへ確実に引き継いで行きます。

●稲作事業

休耕田化に歯止めを掛けるため、年間を通して市民・近隣小学校児童による田植え・稲刈り・餅つき等の農業体験イベントを実施

●ホタルの自然回帰事業

- ・ホタル飼育の専門家による現地調査と技術指導
- ・ホタル増殖実験設備の設置



子ども餅つき会

「きみとぼくの心の故郷を次世代に!」田んぼのある里山「ほたる野」を皆さまの心の故郷に!

■活動地域：千葉県習志野市

■助成期間（年）： 1 2 3

習志野市が指定する自然保護地区に唯一残る田んぼのある里山で、里山の自然環境を守る活動をしています。農家の高齢化による休耕田を再生し、里山の環境を維持し、青少年が将来に亘って「心の故郷」として心に残る環境を作っていきます。親子の皆さんに、米作りの農作業体験をし、食への関心・食への知識・食の大切さを身に付けていただき、心身の健全化を図っていただけるよう活動しています。

2019年度は籾摺り機を購入し、会員の高齢化という大きな課題である機械化による作業負担の軽減が実現できました。また、NORAの田んぼの生き物図鑑を発行し、環境維持活動が生態系維持にどのような効果を及ぼしているのか、今後についてデータで比較することができるようになります。

●活動回数／9回

●活動参加人数／1,307人

●うちTOTOグループ社員／69人

●整備した面積／2,970㎡

現地の声

<参加者>

- ・お米を一粒も残さず大切に食べようと思います。食べているお米は沢山の人の手で作られていることがわかりました。
- ・習志野市にこのような田んぼのある、典型的な里山風景があるなんて信じられないと思いました。
- ・この風景には本当に、心が癒されます。多くの市民がここを訪れ、この殺伐とした社会の中の、癒しの場にして欲しい。絶対にこの里山風景を残して行って欲しいです。



田植え会



NORAの田んぼの生き物図鑑



流しソーメン会

1984年にカリフォルニアでサーファーにより設立され、1993年から日本で活動を始めた当団体は、主に海水の水質調査活動を行ってきました。2011年には一般社団法人となり、海岸エリアを中心とした環境保全の啓蒙活動を、健康的で持続可能なライフスタイルの中で実現することを目的に活動しています。

海水の汚染は海岸エリアの市民にとって日常の問題であり、海岸を有する市町村にとって観光資源を保全するためにも重要な課題です。また『森林環境や住環境、河川などとの「水の繋がり」の最終地点である海岸や海中の状態を知ってもらうことは、地球全体の環境保全に繋がる』という理念のもと、他団体との連携を深め、特に子どもたちへ環境教育に力を入れています。

●海を守る

- ・メンバーの意識調査を実施し、政策や企業活動の指針として提言
- ・有識者、学識経験者との連携
- ・党派を超えたサーファー議員たちによる「海を愛する政治家フォーラム」の開催
- ・地域のサーファーが抱える環境問題に対するシンポジウムの開催支援

●海をきれいにする

全国各地の水質調査活動、ビーチクリーン活動の支援

●海の偉大さを伝える

- ・イベント「海の寺子屋」の開催
- ・ビーチクリーンや簡単にできる水質測定、プラスチックゴミを使ったアート制作などを通じてゴミに触れ観察し、これらがどこで生まれどこへ行くのかを学び、考える



ラボを利用した展覧会

海岸のビーチクリーンを通じた水環境の意識向上

■活動地域：神奈川県鎌倉市・藤沢市・茅ヶ崎市

■助成期間（年）： 1 2 3

昨年度に引き続き水環境への意識向上を図ることを目的としたこの活動は、日常的に海岸を利用する住民に少しずつ認知されてきた実感がありました。ビーチクリーンを定期的に行う団体は大変多く存在しますが、ゴミについて「楽しいワークショップ」を通じて学びを提供するプログラムは珍しく、とくに家族連れが楽しみながら参加できる活動となりました。このプログラムの経験を日常へ繋げてほしいという願いは回を重ねるごとにSNSなどで広がり、地域のビーチクリーンコミュニティからこの活動の実施を求められることも増えました。「ゴミを拾うことよりもゴミを出さない工夫」「住環境から海中にいたるまでの水の繋がり」以上の点について考えるきっかけを作ることができました。

- 活動回数／8回
- 活動参加人数／288人
- うちTOTOグループ社員／3人
- ゴミ回収量／150kg

現地の声

<団体スタッフ>

・スタッフとして知識の少なさを感じました。伝え方の勉強になりました。参加者が楽しそうで張り合いがありました。

<参加者>

- ・家庭内でゴミについて話し合う機会が増えました。
- ・作品を作りたくてマイクロプラスチックを拾いに出かけるようになりました。
- ・海岸に遊びに行ったときの視点が変わりました。



プラごみアート



講師による水環境の紙芝居



ビーチクリーン

14 NPO法人 小網代野外活動調整会議

【代表者】 岸 由二

当団体は、神奈川県が所有する三浦半島「小網代の森」の自然の維持管理作業を、県・三浦市・公益財団法人かながわトラストみどり財団と協働して推進する非営利団体です。

1983年「ポラーノ村を考える会」^(※)として活動を始めて以来、流域思考を組み込んだ自然共生ビジョンを提案し、35年以上実践し続けています。現在は、設立の基盤となった諸団体が新たに形成するネットワークとも連携しつつ、小網代の森の自然環境保全のための各種事業を推進しています。

※「ポラーノ」とは、作家宮澤賢治の童話に出てくる、人と自然が共生する理想の共同体にある広場の名前

- 小網代の森保全
 - ・湿原回復作業（流域の笹刈り、有害植物駆除、堰の設置、流路変更など）
 - ・光環境の改善（流路沿いの樹木伐採）
 - ・ホタルの発生数調査、カワニナの増殖などによるホタル生育環境の整備
 - ・流量回復作業の実施
- 環境学習・自然体験
 - ・周遊散策路の整備
 - ・ボランティアウォーク、ホタル観察会、子どもを対象とした体験型環境学習会の開催
 - ・訪問者（学校、団体、個人など）に対する有料ガイド実施



ハマカンゾウ繁殖地整備

小網代の森「やしゃぶし谷戸」におけるホタル舞う水辺環境の創出

■活動地域：神奈川県三浦市

■助成期間（年）： 1 2 3

2年目の活動となった2019年度、前年度の順調な活動が功を奏し、5月末から6月にかけてのホタルの時期に、ヤシャブシ谷から最大22匹のホタルを確認できました。ヤナギテラス～ヤシャブシ谷のホタルを確認出来たことは大きな成果となりました。ホタルの水路だけでなくヤシャブシ谷の入口周辺の整備も進め、ハマカンゾウを移植し、また、サラサヤンマの飛翔も確認できたため、トンボの産卵地としての整備も進めようとしています。しかし、9月の大型台風により、小網代の森全体そしてヤシャブシ谷も被害を受けました。さらに倒木や倒木の恐れのある危険木があったため、法人スタッフも森に立ち入ることが出来ない期間が続きました。ホタル城についても影響が出ているため、2020年度のホタルの飛翔が気になるところです。

- 活動回数／8回
- 活動参加人数／78人
- 整備した面積／24,000㎡

現場の声

<参加者>

- ・ヤシャブシ谷のホタルが観測されたことは大きな喜びです。引き続き活動に参加しさらにホタルを増やしたいと思います。
- ・ヤシャブシ谷の横の通路にはヤマユリがあり、それをヤシャブシ谷にも移植し植物を増やしたいです。
- ・クワガタやカブトムシだけでなくサラサヤンマのための水場も工夫したいです。



ヤシャブシ谷整備 市民ボランティアとの共同作業



学生スタッフによる水路整備



クサヨシ育成地を新たに作る

15 笹尾川水辺の楽校運営協議会

〔代表者〕 松尾 一四

当会は、自然と触れ合い、水辺と関わる親水施設および環境学習の場として2004年に開校した「笹尾川水辺の楽校」の運営団体です。活動地である笹尾川は、かつては貴重な舟運水路の一部であり、長い歴史を持つと同時に北九州市の水道水源になっている河川です。笹尾川の水質保全・向上を図るためには、河川の環境を守っていくことが重要であり、地域の子どもたちを始めとする住民の方々の川への関心を深めることにより、自分たちの手で河川を大事にし、河川環境を守ろうという心を育てることを目的としています。

- 河川環境整備
 - ・会員および企業との協働による河川敷の清掃、除草作業
 - ・水質調査、水質改善のための竹炭投入
- 水環境啓発運動
 - ・笹尾川水辺の体験教室（小学生対象：カヌー、水生生物調査、水質調査など）
 - ・水環境教育「みずしるべ」（対象：小学生）
 - ・中学生による橋脚への壁画の制作
 - ・ミズベリング（対象：地域住民）
 - 清掃活動、講演会など
 - ・鮭の飼育と稚魚放流大会（対象：幼稚園児）



カヌー体験教室

水辺の楽校を拠点とする河川環境整備と水環境啓発運動

■活動地域：福岡県北九州市八幡西区

■助成期間（年）： 1 2 3

自然と触れ合い、水辺と関わる親水施設および学習の場として設立した「笹尾川水辺の楽校」を拠点として、河川環境整備や水環境啓発運動を行っています。

河川整備活動としては、会員による定例活動や地域住民との清掃活動に加え、TOTO社員と協働で大がかりな除草作業を実施しました。また、イベント会場としている芝谷橋橋脚の壁画は、香月中学校美術部の協力で「ふるさと秋」を完成することができました。

水環境啓発運動としては、「水辺で遊ぼう!」「みずしるべ」住民との協働水質試験、炭浸漬浄化・浸漬竹炭の肥料効果試験、水辺に賑わいを目的に「ナイトリバー」開催、水防災を目的に地域共同作業として「水位目安表示」のペイント作業を実施することができました。

- 活動回数／13回
- 活動参加人数／1,401人
- うちTOTOグループ社員／112人
- 整備した面積／8,000㎡

現地の声

<団体代表>

- ・「水辺で遊ぼう!」には、参加ノートを提供することによって、小学生は大変喜んでいました。
- ・香月中学校美術部の壁画制作は、年々新しいデザインの作品が出来、河川環境の改善に貢献すると同時に、地域の風物詩となりつつあります。

<参加者>

- ・笹尾川は遠賀川の自然型の魚道の役割を果たしており、水生生物の種類の多さにびっくりしています。



牛乳パックによるキャンドルアート



中学校美術部の橋脚壁画除幕式



河川環境整備 協働作業

16 宮城県淡水魚類研究会

〔代表者〕 棟方 有宗

東北地方最大の都市である仙台市は、広瀬川の中～下流域に市街地が形成されており、広瀬川やそこから平野部に分岐した疏水網との関係の中で、水と縁が深い文化を発展してきました。広瀬川には稀少サケ類であるサクラマスが遡上し、平野部の疏水網にはかつては野生メダカが見られました。しかし、水源機能の低下や取水によって広瀬川のサクラマスは減少し、東日本大震災に伴う津波以降は野生メダカも見られなくなりました。また、市民も水文化から遠ざかっています。こうした変化の中で、宮城教育大学など、地域にある組織の有志が当団体を設立し、河川の魚類などとの関係を通して水環境や水文化の復権を目指す活動を展開しています。

- 広瀬川水系に生息する稀少魚類などの保全を通じた水環境・水文化の復権活動
- ・ 広瀬川に生息するサクラマスの生態を電波発信機による行動解析手法（バイオテレメトリー）によって明らかにし、発眼卵の孵化放流や河川整備活動に還元する
- ・ 東日本大震災によって壊滅的被害を受けた野生メダカの生息域の復活のため、メダカの里親を集めるとともに、メダカが生息できるきれいな田んぼをつくり、メダカ米を栽培する



仙台市沿岸域低山掘りを活用した自然教育プログラムの実践

仙台市民とともに醸成する水文化復権の流れ

■活動地域：宮城県仙台市

■助成期間（年）： 1 2 3

東日本大震災の津波で被災した仙台市沿岸域、広瀬川から連なる疏水網の下流沿岸にあたる宮城野区新浜地区に田んぼとメダカビオトープからなる「カントリーパーク新浜」を新営し、津波で全滅した井土メダカの個体群の再建と農薬不使用のメダカ米の栽培を開始しました。また、市内の八木山動物公園、311メモリアル交流館、仙台うみの杜水族館と連携して疏水網のメダカの啓発のための展示イベントを実施しました。また仙台の疏水網の源流となる広瀬川において、流域に設置されている堰堤に対する簡易魚道の設置やサケ類の産卵場造成、自然環境の観察プログラムの立案などの活動を行いました。

- 活動回数／38回
- 活動参加人数／883人
- 植樹／10本（クロマツ）
- 整備した面積／8,400㎡

現場の声

<団体代表>

- ・ 疎水の源流に当たる広瀬川の支流である竜の口溪谷の堰堤に魚道を設置し、淀橋付近にサケの産卵場を造成することで多くの市民が再び川の環境や活用に関心をもちました。

<参加者>

- ・ メダカの里親になって、メダカの保全によって新たな復興の目線が得られたと思いました。



仙台市内小学校等における川や生物に関する出前授業の様子



田んぼビオトープ「カントリーパーク新浜」における田植えイベント



広瀬川淀橋付近分流におけるサケの産卵場造成の様子

17 わたらせ未来基金

〔代表者〕 青木 章彦

当団体は、歴史上の経緯から生き物たちの楽園・自然の宝庫となった渡良瀬遊水池を「ラムサール条約登録湿地にすること」および「渡良瀬遊水池エコミュージアム・プランを実現するための活動を実施していくこと」を目的として2001年に発足しました。

ラムサール条約登録については、他の諸団体と渡良瀬遊水池の治水推進派との合意を得て7年前に実現に至りました。現在は渡良瀬遊水池の現状を調べつつ、将来の有り方について国土交通省への提言を行うなど、より良い方向性を模索しながら活動を実施しています。

- 低層湿原の環境保全作業
外来植物・遷移を進める植物を除去し必要な環境のみ残す
- 環境学習フィールドにおける水生生物調査
- 古河市菊まつり・野木町きらりフェスタ祭りへの参加
活動紹介およびヨシ刈りによって作られた腐茎土を販売、副賞として寄贈
- 足尾山地の緑化・植樹（育林による渡良瀬川流域回復）



タモ網で捕獲

渡良瀬川が繋ぐ上・下流域環境保全再生プロジェクト

■活動地域：栃木県 群馬県 埼玉県 茨城県

■助成期間（年）： 1 2 3

渡良瀬遊水池の湿地としての重要性、上流足尾の山の保水力不足がクローズアップされ、関心がさらに高まっている事は、これまで活動してきた事の副産物だと思っております。活動の前は、ヨシ原の重要性の認識や、外来生物（植物）による在来環境の浸食が話題になることが少なかったが、この活動を通じて少しずつ外来生物（植物）のもたらす影響が、地域住民にも浸透し始め、自然環境に人が積極的にかかわっていくことの重要性が知れ渡るようになってきました。特に平地ダムとしての役割が、湿地によって機能していることも、2019年度の台風などの被害で大きく知られるようになりました。活動前、当地に飛来するコウノトリを目標にしていたが、現在、コウノトリのカップルが私たちの保全する場所のすぐそばに定住しつつあります。

- 活動回数／ 32 回
- 活動参加人数／ 2,340 人
- うちTOTOグループ社員／ 1 人
- ゴミ回収量／ 30kg
- 植樹／ 36 本（コナラ、ミズナラ）
- 整備した面積／ 1,675㎡
- 動・植物駆除／ 植物 1,182 本、外来魚 1,274 匹、アメリカザリガニ 36 匹、幼ウシガエル 35 匹

現地の声

＜参加者＞

- ・もっと、このようなイベントをやってほしい。次のイベントはぜひ知らせてほしいです。
- ・広い遊水池にこれだけ大量のごみが捨てられていることに驚きと、ヨシ焼き前に拾うことの大切さがよく分かりました。
- ・柳の木の生命力の強さと樹林帯になりつつある様子を見て驚いた。作業している真上をコウノトリが飛んで嬉しかったです。



宮城県ラムサール登録湿地研修 蕪栗沼視察の様子



日光市足尾の山、植樹準備



ヨシ刈り

18 八千代市ほたるの里づくり実行委員会

〔代表者〕 金室 彰

ほたるの里づくり実行委員会は、生き物を通して自然の仕組みを理解し、共生するために、ホタルをはじめとした多様な生物の生息環境づくりを市民・企業・八千代市とのグラウンドワーク方式で実施しています。1998年から活動を開始し、21年が経ちました。昔は里の周辺の田んぼではヘイケボタルの飛翔が見られましたが、圃場整備などの影響で絶滅しました。八千代市内のヘイケボタルの再生を願い、里が多様な生物の生息の場となることを目指して活動しています。2015年には当地が「生物多様性保全上重要な里地里山」（環境省）に選定されており、次世代の子どもたちにつなぐ場であることを心に留めて今後も活動していきます。

- 里の環境整備
- 夜の生き物観察会
- ザリガニ釣り大会
- ほたるの里だよりの発行
- ほたるの里環境作品展
- イベント等での活動紹介



市民活動フェスタ ほたるの里のブース

生物多様性の基地として～目指そうホタルの自生～

■活動地域：千葉県八千代市

■助成期間（年）： 1 2 3

2019年度は、

- ・湿地を主とし、生物が棲みやすい環境整備
- ・ザリガニの駆除を継続
- ・ホタルの飛翔調査を約40日間継続
- ・おやこ生き物探検隊（3回）
- ・里の紹介リーフレット作成

など実施しました。結果は、ホタルの幼虫60匹放流し、約11匹の飛翔を確認しました。自生への可能性も高まり、2020年度は放流なしで観察することになります。また、ニホンアカガエルの卵塊が昨年までは3～4個でしたが、2020年の2月には56卵塊があり、環境が整ってきたと実感しています。

- 活動回数／14回
- 活動参加人数／306人
- うちTOTOグループ社員／41人
- 整備した面積／1,133㎡
- 動・植物駆除／3,958匹

現地の声

<団体代表>

ほたるの里へ来られた方が、当会のメンバーがアメリカザリガニの駆除をしていることを聞き、参加協力して下さるようになりました。ヘイケボタル飛翔調査期間中に里に来訪された方が、身近にホタルを見られる環境があることに驚かれました。



湿地の補修作業



台風15号倒木の整備



おやこ生き物探検隊

森林と触れ合った体験が乏しく、森づくりへの理解が深まっていない多くの人々に対して、楽しさを取り入れた多彩な活動を展開するために、2003年に設立しました。ごく普通の人々が当たり前のように森づくりに関心を持てる社会を創造し、もって日本の森林の育成・保全に寄与することを目指して活動を行っています。

- 都市住民と山間地域の住民との連携・協力による森林の育成と保全活動及び森林学習
- 森づくりのコンテンツを活かした企業の社会貢献活動を促進させるためのプログラム提供
- シングル世帯への野外体験活動の参加機会の提供

<主な実績>

- ・山火事によって消失した山林の再生(長野県東御市)
- ・手入れ不足となり照葉樹林化している里山の再生(東京都八王子市)
- ・津波の被害で枯れてしまった千葉県山武市殿下海岸林の再生(千葉県山武市)



東京で棚田の復活を進め、森と水のつながりを啓発

千葉県九十九里海岸防災林の再生～海岸林の機能強化をめざして

■活動地域：千葉県山武市

■助成期間（年）： 1 2 3

3.11の津波による塩害によって失われた千葉県山武市蓮沼殿下海岸防災林を元に戻すための環境活動として延べ277名のボランティアの参加のもと6回の活動を行いました。

結果、2,000㎡に新たに植林2,000本を行うことができたと共に、これまで育ててきた32,000㎡・32,000本の苗木周りの下草刈りができ、海岸林の公益的機能の強化に強く貢献できました。

- 活動回数／5回
- 活動参加人数／133人
- うちTOTOグループ社員／61人
- 植樹／1,100本（抵抗性クロマツ）
- 整備した面積／40,000㎡

現地の声

<参加者>

自分の手で森の再生や保全に役立つことができるということがわかって良かったです。私たちが少しずつ手を加えながら、森が自分で育っていくような環境づくりを学んでいけたらと考えています。



雨にも負けず植林する様子



大勢が参加した草刈り



9年続けてきた海岸林再生

20 白子川源流・水辺の会

〔代表者〕 菅沢 博

白子川の源流域（練馬区立大泉井頭公園内）は、東京23区内でも稀有な湧水が多くのある場所で見られ、絶滅危惧種のホトケドジョウをはじめ多種多様な生物が生息する貴重な水辺環境となっています。

白子川源流・水辺の会は、当エリアの自然環境の保全・回復を図ることを目的に2001年6月に設立され、以来20年近くになつて水質・生物・植物調査と川の清掃などの定例活動、近隣小学校の総合学習への支援活動を続けてきました。また、水辺のある暮らしの楽しさ、豊かさを地域住民と共有するため「白子川源流まつり」の開催など各種啓発にも取り組み、活動を通して、地域の多くの方々が“湧き水のある町 大泉”を実感できることを目指しています。

- 定例活動（川の清掃・草刈り、水生動植物の生態調査）
- 近隣小学校の総合学習への支援活動（講師派遣、川体験の実施）
- 「白子川源流まつり」の開催（環境啓発、地域の交流）
- その他
アユの放流、他団体が主催するイベントへ出前講座・出展、講演会の開催、環境学習用冊子の刊行など



白子川の中流でも「白子川ファン」が増えるように活動支援

白子川源流域の湧水量と水質の回復による水辺環境の再生

■活動地域：東京都練馬区

■助成期間（年）： 1 2 3

2019年度は、練馬区が公表（2018年12月）した「みどりの総合計画」の改定素案において、“水辺空間の創出”をテーマに「大泉井頭公園（白子川源流部）の拡張工事に着手する」と明示されたことを受け、区への要望書の提出や議会の傍聴等行政への対応に多くの時間とエネルギーを費やした一年となりました。

加えて、私たちは、白子川の源流部に巨大な調節池の設置が盛り込まれた東京都の「白子川河川整備計画」とこの「みどりの総合計画」を“表裏一体”として捉え、“まちづくり”の観点から、新たな緑地環境の構築に取り組むべく活動に主眼を置き、今後その主体として活動を拡げていくことを目指して、白子川の流域を意識した共同の在り方を模索した一年でもあったと受け止めています。

- 活動回数／32回
- 活動参加人数／1,322人
- うちTOTOグループ社員／40人
- ゴミ回収量／146袋（90L）
- 植樹／200本（ヘデラ・コウホネ・ミツガシワ等）
- 動・植物駆除／160袋（90L）（ウキヤガラ・ミズヒマワリ等）

現地の声

<団体代表>

定例活動に参加する一般の方の中には、ザリガニを見ることがない人が意外に多いことに驚きます。大人の場合、おっかなびっくりしながら小さなザリガニを掌にのせると、怖がりながらも楽しんでいる様子が印象的です。子どもは、図鑑で赤い大きなザリガニは見ているものの実際に川にいるザリガニを見たことのない子どもが多いことがわかりました。



第19回源流まつり



白子川源流清掃



小学生“まちたんけん”学習

変遷していくスピードの時代に対応していくためには、従来型の一つ一つの「建築」を個々に考え築きあげていくよりも、知識人達や優秀な「ものづくり」の心と技を持つ職人達との人脈ネットワークを利用し、新しいライフスタイルや建築空間のあり方などを提案したり、将来の方向性を探るコンサルティング組織(シンクタンク)が社会に対して必要ではないかと考え、2007年11月に『建築系シンクタンク』として当団体は発足しました。

「半歩先の都市型のライフスタイルを考察しています」をキャッチコピーとして、環境保全、減災活動、地域まちづくりをテーマにプロボノ活動を展開しています。

- 建築技術コンサルティング
- ・ 建築専門誌への執筆
- ・ 若手技術者育成などコンサルタントとしての活動
- まちづくり支援、空間プロデュース
- ・ 「都市と自然との共生」の考察
- ・ 都市型ライフスタイルの空間プロデュース
- ・ 江戸川区こども未来館 区民ティーチャー&ボランティア 他



江戸川人生総合大学講演

西なぎさ発:東京里海エイド

■活動地域：東京都江戸川区

■助成期間（年）： 1 2 3

葛西臨海公園西なぎさは、都心にある希少な干潟であり、生物多様性に富んだ「自然と都市の共存」の象徴的な場所です。2018年10月に西なぎさを含む葛西海浜公園がラムサール条約の湿地に登録されました。

「西なぎさ発:東京里海エイド」の活動は、葛西の干潟でこれまでに最も多くの漂着ゴミを収集している活動です。市民活動化してから10年目となった2019年度の活動では、総参加者数が373名(内子ども37名)でした。これは複数の組織・団体の参加やご協力が継続的にあったからこそ実現できたものと考えています。

この活動を通して、葛西地区の干潟の希少性と漂着ゴミの社会問題についての認識がいつそう広がっていくことを期待しています。

- 活動回数／9回
- 活動参加人数／373人
- うちTOTOグループ社員／111人
- ゴミ回収量／1,080kg

現地の声

<団体代表>

2018年に海洋ゴミやプラスチックゴミの問題が世界的な社会問題化されてクローズアップされるようになり、東京湾における海洋ごみにも着目があり、過去10年間定期的に漂着ごみのクリーンアップ活動を継続してきた「西なぎさ発:東京里海エイド」に注目されている傾向にある手応えです。多方面からの様々な問い合わせが増えてきている状況です。



西なぎさ発 ビーチクリーン



西なぎさ発 ビーチクリーン



西なぎさ発 東京里海エイド

22 NPO法人 海の森・山の森事務局

〔代表者〕 豊田 直之

プラスチックを中心とするゴミがどれだけ河川を通じて海洋に流出しているのか、私たちの生活排水がどれだけ海に影響を与えているのか、私たちの出したゴミで海の生き物たちがどんなダメージを受けているのか…。当団体は環境保全活動を実践しながら、これからのことを写真展、ビジュアルトークショー（講演）、ビジュアルコンサート（映像と音楽とのコラボレーション）、デジタル紙芝居（映像と読み聞かせとのコラボレーション）などで次世代を担う子どもたちに伝え、環境保全の必要性を普及啓発しています。2008年に活動を開始し、2012年にNPO法人となりました。

- 小学校への「海洋プラスチック汚染」など環境出前授業実施事業 24回実施
- 大岡川の環境保全・再生活動とその活動広報紙「大岡川ニュース」の製作・配布事業 4回発行
- 城ヶ島および茅ヶ崎沖の海底および海岸のゴミ調査・清掃事業 8回実施



ボランティアダイバーによる茅ヶ崎沖海底ゴミ拾い

独自メディアで発信!大岡川クリーンアップ大作戦

■活動地域：神奈川県横浜市

■助成期間（年）： 1 2 3

3年連続助成いただいた活動の集大成として、今年度の活動により大きな賞を3つも受賞することができました。プロジェクトそのものが3年間で研ぎ澄まされ、単なるゴミ拾いでは終わらず、横浜市内の多くの小学生を巻き込み、子どもたちへの環境出前授業、子どもたちの自発的なアクションへと繋がり、それらが高く評価されました。第18回トム・ソーヤースクール企画コンテスト（主催：公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団）において安藤百福賞、神奈川県ボランティア活動奨励賞、横浜市環境活動賞大賞、いずれもグランプリ受賞となりました。

- 活動回数／ 16 回
- 活動参加人数／ 581 人
- うちTOTOグループ社員／ 11 人
- ゴミ回収量／ 597.683kg

現地の声

<参加者>

- ・最初は少しでもゴミを拾うことで自分たちの住むエリアがきれいになればいいと思っていましたが、やっていくうちに面白くなって、可能な限り毎回参加しています。
- ・多くの大人のの人たちと一緒に活動できるのは、学校では教えてもらえないこと。お友達とも一緒に参加できるし、街もきれいになって、一石二鳥です。



植え込みも何のその、小学生女子



大岡川 PGT 大作戦



小学生ボート班として参加

23 一般社団法人 金山里山の会

〔代表者〕 前川 修

第12回

3年目

国内

射水南部丘陵地の里山においては、30～50年間木が利用されなくなったため、高い木が生い茂り原生化し荒廃が進んでいます。原生林化した里山は光・風が入らず、新たな樹木も育たない環境となっており、猪や熊が出る奥山となっていました。そこで昔のように豊かな里山に再生すべく、2012年に当会を発足しました。活動として、間伐を実施、伐採した木を薪・茸原木に利用することで広葉樹林に広く光を取り込んで光合成を促進し、保水機能の豊かな涵養林の形成・拡大を図っています。

- 森林整備および森林空間の利活用
涵養林の里山における不要木の除間伐、チップロード(林道)の整備、キノコ生息地探索、森づくり勉強会の開催
- 木竹・キノコなどの森林資源の利活用
除伐した木を活用し、薪生産、茸菌を植菌した茸生産の実施
- 環境啓発活動
「里山林の必要性」についての研修会、里山実務研修会等の開催
(対象: 金山小学校の児童、富山県立大学生、地域内の方、TOTO社員)



薪原木を運ぶ為の準備作業

水と緑の輝く里山プロジェクト

■活動地域：富山県射水市

■助成期間（年）： 1 2 3

金山地区の里山は昔からコナラの木を育て、それを燃料、炭にして生活してきました。人々は里山のコナラの木を守るため、雑木を伐採し、コナラの木を間伐してきました。その結果、昆虫と小動物が生息し、溜池には清らかな水がたまり、田んぼを潤してきました。今回の活動により一部分ではありますが、そのような状況になったと考えています。

- 活動回数／ 68 回
- 活動参加人数／ 503 人
- うちTOTOグループ社員／ 25 人
- 整備した面積／ 6,500㎡
- 椎茸原木製作／ 399 本
- 薪生産／ 21㎡

現地の声

<団体代表>

公民館祭りで里山の会が活動している写真を展示、椎茸原木や金山松茸等の提供をした結果、見学者は非常に関心を示されました。年に一回金山小学校で里山の講義を行い、椎茸原木の菌入れを行っており、又小学校に金山松茸を提供し松茸ご飯を昼食に振る舞われています。



薪づくり作業でコナラの原木を40cmに定寸切断



里山研修



クサビの作り方と切断方法説明し切断

24 大富山を愛する会

〔代表者〕 庭野 雅人

私たちの里山である大富山は、貴重な動植物の宝庫となって当会は、2013年からこの自然の宝の山をふるさとの山として大切に守っていくことを目指して、中心を通る美佐野街道の整備や湿地の保全活動を始めました。山中には準絶滅危惧種のシデコブシやハナノキなどが多く自生していることから、その保護・育成にも力を入れています。さらに山の魅力向上を狙ってホタルを飛ばすことを目標の一つに加えるなど活動の領域も広がってきています。

- 湿地林、湧水湿地の保全
- 美佐野街道および古墳周辺整備
- 美佐野街道周辺への植樹(桜・紅葉など)
- 地域住民交流会の開催
- 大富山の自然を紹介する案内看板の設置、チラシの配布



街道の湿地部分に御影石を敷き歩きやすく整備

大富山湿地の涵養と保護及び美佐野街道ふれあいの場所整備

■活動地域：岐阜県土岐市

■助成期間（年）： 1 2 3

大富山に自生するシデコブシなどの貴重な動植物を保護し育てていくために、シデコブシ密生地でシデコブシを被圧している樹木の伐採など地区内の環境保全活動を実施するとともに、地区内を通る美佐野街道の草刈りや維持補修活動を実施しました。また、地区内の溪流にホタルを飛ばすことを目指しホタルの飼育、放流活動始めるなど、美佐野街道を散策し大富山の四季を楽しんでくれる人が増えることを目的に事業を実施しました。

- 活動回数／12回
- 活動参加人数／312人
- うちTOTOグループ社員／8人
- 植樹／45本（さくら・もみじ）
- 整備した面積／800㎡
- ホタルの幼虫の放流／800匹

現地の声

<団体代表>

「歩こう会」に参加した人々からは、身近にこんな素晴らしい環境があることを知らなかったという声をよく聞きます。また、自治会活動以外にも会の活動に参加することで、地域住民としての連帯感を感じられるようになってきています。



美佐野街道整備 湿地付近のロープ張替え



美佐野街道整備 冬の間の倒木を除去



大富山をあるこう会

当団体は、「びわ湖をきれいにするにはまず地元の川から」を合言葉に、ゴミのない自然環境に恵まれた家棟川を取り戻すことを目指して2007年に設立されました。流域のゴミ拾い活動を通じて、ゴミをなくすためには広く市民の方々に家棟川の実態を知ってもらう必要があると考え、県内外の人々に家棟川とびわ湖の現状を知ってもらう「環境と観光を融合」へと活動の幅を広げてきました。さらに2011年からは、家棟川の生態回廊の再生を目的とした流域の魚類の調査を始め、現在はその成果を踏まえて、ビワマスをシンボルとして川の環境保全やまちづくりを図るプロジェクトに取り組んでいます。

- 市民・行政・企業などとの協働によるびわ湖・家棟川流域の清掃
- 家棟川エコ遊覧船の運航
手漕ぎの遊覧船を使った自然体験、船頭の語りによる環境および地域の歴史学習、湖魚を使った伝統食「漁師料理」の提供
- 家棟川の生態調査および外来魚の駆除
- 水源の森における植樹
- びわ湖あやめ浜におけるヨシ苗の植栽



漁民の森作り

家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト

■活動地域：滋賀県野洲市

■助成期間（年）： 1 2 3

活動成果として、仮設魚道を毎年改良を加えることで、ビワマスにとって遡上しやすい構造物を作り上げ、上流域に遡上するビワマスの姿を確認できたことが挙げられます。本プロジェクトの目指す街中までビワマスの遡上する川づくりへ一歩前進したとの実感を持っています。しかし、びわ湖から遡上するビワマスの数は年により大きな差がみられ、今年度は例年に比べ非常に少なく（10匹程度）、確認された生育稚魚も2匹にとどまりました。仮設魚道はほぼ満足する状態になった今、肝心のびわ湖から家棟川に帰ってくるビワマスが少ないのが大きな問題です。今後、地球規模での環境変動が日常化する中、びわ湖・家棟川を取り巻く環境はますます厳しいものとなっていくことが予測されます。その中で、本プロジェクトの特徴である市民、行政、専門家、事業者の協働のもと、今後も多様な人達の賛同、協力を得て、本活動を強力に推進していきたいと考えています。

- 活動回数／ 24 回
- 活動参加人数／ 705 人
- うちTOTOグループ社員／ 23 人
- ゴミ回収量／ 755kg
- 植樹／ 220 本（コナラ、桜、オニグルミ、アオダモ）

現地の声

<参加者>

- ・地道な活動の継続には苦労が多いと思います。時間が合えば家棟川、童子川、中ノ池川、祇王井川等の清掃にも参加したいです。
- ・野洲市の取り組みは素晴らしい。他の市・町の活動に大いに刺激となりました。今後がとても楽しみです。
- ・川の上流にも目を向けていく必要があります。野洲市民がゴミを捨てなくとも上流に住む住民に注意喚起が必要です。



産卵床の造成



稚魚調査



ビワマスフォーラム

26 NPO法人 ゴミンゴ・ゴミ拾いネットワーク

〔代表者〕 近藤 潤

当団体は2007年にNPO法人となり、大阪市・藤井寺市などの6つの河川、和歌山市・姫路市の2つの無人島でゴミ拾い活動を行っています。既存のゴミ拾いは、自治会など地域の方を中心としたゴミ拾い活動がほとんどですが、私たちはあえてゆかりのない、ゴミ拾いを行う団体や組織がない場所にも足を運んで活動を行っています。これによってゴミを拾ってくれる人がいない地域の人々が快適な生活環境を享受することができます。一般の参加者にも広く呼び掛けて、一般の方々がゴミ拾いに関わるきっかけを与えたいと考えています。

- 川ゴミ拾い
 - ・ゴミンゴ石川：大阪府藤井寺市
 - ・ゴミンゴ海老江干潟：大阪市
- 島ゴミ拾い
 - ・友ヶ島（和歌山県）
 - ・家島（兵庫県）



伝法清掃

島ゴミプロジェクトー離島に流れ着く漂着ゴミ拾いー

■活動地域：和歌山県友ヶ島、兵庫県家島

■助成期間（年）： 1 2 3

2019年度も2つの島（友ヶ島・家島）での活動を無事に終えることができました。4月に行った第13回友ヶ島ゴミ拾いでは前年2018年の台風19号の影響がかなり色濃く残っており、活動開始以来のゴミの漂着量でした。10月に行った第3回家島ゴミ拾いでは、前年度好評だった地引網体験で大量の魚を獲ることができましたが、職員の方たちも確認したことがない生物もあり、温暖化の影響で魚類の生息域が変わってきているのかという印象も抱きました。一般の参加者にとって無人島に行ってゴミ拾いをするということは、非常にワクワクする体験であるが、現地で実際にゴミの量を目の当たりにすると、漂着ゴミ問題はもはや世界的な喫緊の課題であるということが実感できると思います。楽しく環境問題に取り組めるプログラムとして今後も継続していきたいと考えています。

- 活動回数／2回
- 活動参加人数／137人
- ゴミ回収量／1,485kg

現地の声

<参加者>

- ・ごみはたくさん拾ったはずですが、まだまだたくさんのごみが海岸に残されています。ということは、今後この海岸からごみが消えることはないのだろうと考えると、とても悲しくなりました。
- ・ワークショップを通し、環境問題を真剣に考える若者たちに感動しました。たくさんの子どもたちが参加していることも、とても嬉しく感じました。



友ヶ島清掃



友ヶ島清掃



家島清掃

川が暮らしの一部であった頃、そこには子どもたちの姿があり、子どもたちのはしゃぐ声が溢れていました。川で泳ぎ、魚を獲り、それらを食べる。川には楽しいことがたくさんあり、人々はその楽しみを通して川と深くつながっていました。そして川遊びを通じて、その土地の人々が昔から培い伝えてきた「川と共に生きる知恵や技術」を伝承していました。しかしそんな「川遊び文化」は、川で子どもたちが遊ばなくなった昨今では失われつつあります。

当団体は2010年に設立し、「川と人をつなぐ」をキーワードに自分の暮らしと吉野川の関わりを「川遊び」を通じて感じてもらい、「川遊び文化」を再生し、川と共生する社会を作ることを目指しています。

- 第十堰水辺の教室
年間通じた吉野川の遊びと文化の体験(しじみ漁体験、干潟観察など)
- 夏の川遊びキャンプ
河原でテントを張り、自分のやりたい遊びをとことんやりつくすフリーキャンプ(シュノーケリング、金突き、カヌーなど)
- およこアウトドアくらぶ はんもつく
0～5歳児の親子対象の川遊び体験(干潟観察、カヌーなど)
- その他
体験活動多数



すじ青のりの種付け体験！

かっぱの川そうじ

■活動地域：徳島県阿波市

■助成期間（年）： 1 2 3

吉野川は、全国でも有数の自然環境を有し、流域の暮らしや文化、産業の発展を支えています。また、子どもたちの恰好の遊びの場であり、環境や文化を学ぶ場となっています。そんな素晴らしい自然環境を持続可能なものにするため、毎月1回、河川敷清掃活動を実施しました。

- 活動回数／ 10 回
- 活動参加人数／ 115 人
- うちTOTOグループ社員／ 10 人
- ゴミ回収量／ 8,200kg

現地の声

<参加者>

生き物たちは捨てられた空き缶やペットボトルの中で生活しているのもしました。生き物の順応性に驚いたのとゴミの中で生活していることに切なさを感じました。



テレビ局の取材風景



他団体と河川清掃



ゴミでアート作品

28 東朽網校区まちづくり協議会

〔代表者〕 利光 央

当協議会は、小学校校区単位で地域コミュニティのネットワークを構築するとともに、住民の保健福祉、防災・防犯、生涯学習の拠点となることを目的として設立されました。地域住民相互の連帯感と自治意識の高揚を図り、地域共通の課題解決に努め、ふれ合いのある豊かな地域社会づくりを目指して活動を行っています。

TOTO水環境基金の助成をきっかけにして、それまで有志で行っていた環境整備を当協議会が中心となって計画的に進めてきました。山から海までの広範囲にわたって様々な環境活動を実施しています。

- 昭和池周辺の環境整備、清掃活動
- 桜やもみじの植樹活動及び古木の伐採
- 曽根干潟の清掃活動、動植物の観察会およびカブトガニ産卵観察会や産卵場所の環境保全活動
- 水晶山清掃活動



昭和池クリーン作戦と桜の植樹会

水と緑の美化プロジェクト

■活動地域：福岡県北九州市

■助成期間（年）： 1 2 3

東朽網は、水源地である水晶山から豊富な水をたたえる昭和池、朽網川、豊かな養分を海へと送り出す河口や干潟と、それぞれが地域の宝ともいえる一連の水環境を有した稀な地域です。この豊かな自然を通して、環境の変遷や地域の未来を住民全体で考えていくために、大人から子どもまであらゆる年代の住民と一緒に学ぶ体験型学習活動及び清掃活動を行い、委員会では毎月の定例会を実施した。水環境を次世代へ守り繋ぎ、地域の宝の大切さを共感できる環境意識の高い人づくりを目指し、シビックプライドを醸成して行きたいと考えています。毎回、TOTOの皆さまや一般ボランティアの皆さまに参加いただき、大規模で効果的な活動に繋げることができました。今後も、ふるさと東朽網を愛する心を育み、継続して水環境を守り繋げる活動に取り組んでいきます。

- 活動回数／26回
- 活動参加人数／697人
- うちTOTOグループ社員／144人
- ゴミ回収量／930kg
- 植樹／24本（薄墨桜、ヨウコウ桜、もみじ）
- 整備した面積／21,000㎡

現地の声

<参加者>

- ・マイクロプラスチックが海や人体に与える影響を知ることができて勉強になりました。環境や鳥の生態についても興味を持つようになりました。(小6女子)
- ・家族や地域住民など、子どもと大人と一緒に清掃活動を行うことで、自分の住んでいる地域の環境改善に取り組み、自然豊かな故郷を未来に残したいと思いました。(40代女性)



昭和池・もみじ谷環境整備



曽根干潟野鳥と水辺の希少生物観察会



朽網川河口の漂着海藻類・漂着ごみの除去

29 NPO法人 改革プロジェクト

〔代表者〕 立花 祐平

第12回

3年目

国内

2010年9月に「改革プロジェクト」を発足し、地域の海岸などの清掃活動に取り組んできました。また、知人女性が不審者の被害に遭った事件をきっかけに地域の見回り活動を開始し、2013年に新しいスタイルの防犯活動として若者を中心とした「パトラン(パトロールランニング)」を立ち上げました。現在では全国で11のパトランチームを展開し、現在約1,300人のパトランナーが活躍中です。「まちの環境づくり」・「パトロール事業」・「防犯啓発事業」の視点から、子どもや女性が安心して暮らせる地域社会の実現を目指しています。

- まちの環境づくり・海岸清掃活動
 - ・市街地清掃活動：パトロールをしながらゴミ拾いをする「星屑集めパトラン」
 - ・海岸清掃活動：定例活動(月1回)「Yの字作戦」
- パトロール事業
 - ・夜間パトロール(個人パトラン&チームパトラン)
帰宅途中の女性や塾帰りの子どもが被害となりやすい駅や塾周辺でパトランを実施
 - ・子ども見守りパトラン
下校時間に合わせ、小学校と連携してパトランを実施
- 防犯啓発事業
 - 子どもや女性が自らの身を守るために必要な防犯知識と回避方法等についてのワークショップ・講演を全国各地で実施



パトラン東京チームキックオフ

Yの字作戦2019

■活動地域：福岡県宗像市

■助成期間(年)： 1 2 3

宗像の自然環境は美しく雄大ですが、私たちが主に活動する福岡県北部の海岸は、隣国からの多くの漂着物が流れ着き散乱し、景観を損ねる原因となっています。世界遺産にも選ばれた宗像が誇る大島、地島、釣川の美しい自然環境を後世に残していくことの必要性を感じたため、当プロジェクトを実施しています。2019年度の1年間のプロジェクトで計7回の活動を実施、567kgの漂着ゴミ、廃棄されたゴミ、漂着木材、タイヤなどを回収することができました。また、宗像の若手漁師の環境活動(船を出して海底のゴミを取り除く)を支えることを目的にしたチャリティーTシャツ(トーエベッサンTシャツ)を制作し、販売で集まった寄付は、海辺の環境保全活動の一部として活用してもらいました。TOTO社員の皆さまに参加していただくコラボイベントでは、当団体の環境の取り組みに実際にふれてもらい、海辺の現状を知り、環境問題について考えていただく一歩に繋げる事ができたのではないかと感じております。環境問題への社会的関心はグローバルに高まりつつありますが、まだまだ多くの方の協力や環境意識の定着が必要ですので、今後も息の長い活動の必要性を感じています。

- 活動回数／7回
- 活動参加人数／93人
- うちTOTOグループ社員／48人
- ゴミ回収量／567kg

現地の声

＜スタッフの声＞

私がこの活動に参加させて頂いてから3年になりますが、いつも清掃作業が終わった後、子どもたちをつれてその海を訪れています。清掃したあとの浜辺は、ケガの心配をせず自由に遊ばせることのできる安心感があります。清掃活動を行って頂いているTOTO様には、子をもつ親としても感謝しかありません。ゴミを拾って宗像の海をきれいにする。一人の活動としては限界があります。しかし、改革プロジェクトとして、その活動を地道に続けていくこと、企業のご協力を頂きつつ、人々の共感を得る。そのような大きな広がりを見せることが、「裸足で歩ける砂浜」を取り戻すことができる。身をもってそう実感しています。



深浜海岸清掃活動



深浜海岸清掃活動



鐘崎漁港クリーンアップ

30 津古ふるさと会

〔代表者〕 白木 一智

一級河川筑後川水系宝満川に合流する宝珠川は、里山を流れる全長約5kmの河川です。1980年代、中流域で福岡・久留米商業圏のベッドタウンとして宅地造成・都市化が進み、人口増と共に宝珠川へのゴミ投棄や周辺道路へのポイ捨てが増加しました。そこで、子どものころ宝珠川で川遊びをした区民有志が汚れを憂い、2006年から清掃活動を始めました。活動を継続するうちに粗大ゴミは減少しましたが、ペットボトル、レジ袋などの生活ゴミが増加しています。「きれいな環境下では投棄ゴミは少ない」と言われており、川面に泳ぐ鯉、春はナノハナとサクラ、秋はヒガンバナが咲く土手、年中花が咲く四つの花壇を維持することによってゴミの投棄を防ぎ、子どもたちと共に自然が傍にある住環境を目指して活動を続けています。

- 宝珠川清掃・景観整備
清掃活動(年3回)と鯉の放流、土手に彼岸花の球根植付け実施
- 花壇の管理・運営
「津古バス停」、「津古駅踏切」、「八龍神社境内」、「県道582号線側道」の4か所に花壇を設置。投棄ゴミの清掃と雑草の除草を行い、マリーゴールド、パンジー、コスモス等の植付け、手入れを実施



バス停花壇に植え付け

津古の住環境に溶け込む宝珠川の清流再生と維持

■活動地域：福岡県小都市

■助成期間(年)： 1 2 3

プロジェクト3年目の活動となる2019年度は、ゴミ回収や植物の植え付け、幼魚放流など10回活動し、201名が参加しました。住宅化が進み宝珠川の更なる環境悪化が予想される中、生活に溶け込む宝珠川を目指し、河川内及び周辺清掃・幼魚放流・土手の植栽整備をメイン事業として活動しました。各活動は定量成果の通りで目標以上の成果を得ることができました。イベントとして植栽したヒガンバナは将来にわたり秋の彩になると思います。春の桜、秋の彼岸花が咲く宝珠川を今後も維持していきたいです。

- 活動回数／10回
- 活動参加人数／201人
- うちTOTOグループ社員／5人
- ゴミ回収量／200kg
- 植樹／1,000本(ヒガンバナ)
- 整備した面積／120㎡

現地の声

- ・マリーゴールドの種を始めて見ました!種を蒔いたポットに水も掛けました。いつ芽が出るかなあ?(子ども会)
- ・津古のサクラを見に行きました。満開の桜の下、宝珠川に錦鯉が沢山、餌を投げ込むと飛び跳ねていました、バス停花壇のパンジーも満開!津古ふるさと会の皆さんの作業風景が目には浮かびました。(郡市ボランティアセンター職員)



子ども会と一緒にポット苗作り



宝珠川のゴミ拾い



球根を小都市市長と植え付け

31 NPO法人 水辺に遊ぶ会

〔代表者〕 足利 由紀子

第12回

3年目

国内

大分県と福岡県の県境にある中津干潟は、絶滅危惧種のカブトガニやアオギスの生息地として知られ、瀬戸内海最大の面積と環境を誇っています。当会はこの中津干潟の保全活動を実施して今年で21年になる団体です。活動当初、ゴミが散乱し、人の姿もなく、「死んだ海」「近寄ってはいけない」と言われていた泥の海で、小さなカブトガニの子どもを見つけた時の感動を多くの子どもたちや市民に伝えたいと考えました。身近な自然が実は豊かで素晴らしいことを知ってもらい、いつの間にか遠くなってしまった「海と人の心の距離」を取りもどすことを目的とし、「生きもの元気、子どもも元気、漁師さんも元気な中津干潟を100年後も!」を合い言葉に活動を続けています。

- 小中学校における環境学習指導（授業とフィールドワーク／市内外約20校）
- 生物調査（カブトガニ・渡り鳥・底生生物など）
- 廃棄物削減と景観美化活動（海岸清掃・漂着ゴミ調査・松林再生）
- 水産振興（アカニシ染め・おさかなホネホネ教室・海苔巻き教室・海苔すき体験・干もの教室）
- ベッコウトンボ保護活動（観察会・生息地環境維持活動）
- 中津干潟における大学の調査研究活動のサポート
- 「ガタガタ通信」、「大新田の浜と松林の物語」、「松管理マニュアル」発行
- 研究者とNPOによるネットワーク「中津干潟アカデミア」立ち上げと研究発表会の開催



干もの作り教室

生きもの、子ども、自然が元気な中津干潟みらいづくり活動

■活動地域：大分県中津市

■助成期間（年）： 1 2 3

「ビーチクリーン」は、大新田海岸で3回実施しました。今年も多くの参加があり大新田地区の沿岸域は良好な状態が保たれています。しかし、コロナ感染防止により、ゴミの大量多い三百間海岸が実施できなかったのが大変残念です。

「松林再生活動」は、大新田海岸で3回実施しました。皆さんの熱心な活動の成果で、松林が昔の景観に戻りつつあり、地域住民からの評価も高いです。しかしながら松枯れの被害もあり、植樹などを検討したいと思います。

「環境学習推進」においては、夏休みを中心に生物観察会、アカニシ染めワークショップ、「ひがたらば」での海ゴミを利用したワークショップなどを行い、多くの子どもが参加しました。海の絵コンテストも800店を超える応募があり好評でした。

- 活動回数／13回
- 活動参加人数／1,069人
- うちTOTOグループ社員／207人
- ゴミ回収量／680kg
- 整備した面積／19,500㎡

現地の声

- ・松林がこんなにきれいになっているなんて知らなかったです。ありがとう。（地域のお年寄り）
- ・夜の海岸で一生懸命子どもを産むカニがいるなんてビックリしました。（アカテガニ観察会の参加者）
- ・子どもたちがこんなにたくさん海の絵を描いてくれるなんて驚きました。しかも、余所の地域と違って、カブトガニやアカテガニ、ハモなど、ちゃんと中津の海の絵になっていました。（海の絵コンテスト審査員）



大新田ビーチクリーン



大新田海岸松林再生活動



夏休みアカテガニ観察会

32 関の江海岸の自然を守る会

〔代表者〕 高橋 東洋雄

関の江海岸は別府市の中で唯一自然の砂浜のある海岸であり、数種類の植物が保護植物に指定されています。「この地域の多くの住民と共に、環境の保全と整備に組織的・継続的に取り組み、環境改善を図り、環境に対する意識を高め、自然豊かで美しくみんなから愛される関の江海岸にする」という目標をもって活動してきました。活動には当団体の会員の他に、TOTOグループ社員・ご家族の方々、立命館アジア太平洋大学（APU）の教授や学生たちも多く参加し、より一層環境整備が進んでいます。

- 関の江海岸、冷川、温水川の草刈り・清掃活動（定例活動）
- 冷川の水路調整作業、育成田の草刈り作業（定例活動）
- 公募による大規模清掃活動（関の江海岸漂着物の除去・冷川草刈り）
- 温水川下流における「セキ」の製作・整備活動
- 冷川：ホタルについての学習会・鑑賞会の実施
- 大学生（アジア太平洋大学）、高校生（上野丘高校）との交流会実施



育成田にホタル幼虫のエサとなるカワニナを放流

関の江海岸の自然を守る会

■活動地域：大分県別府市

■助成期間（年）： 1 2 3

2019年度は、事業計画「冷川、温水川の水質を向上させる」と目標「昔のように生物が溢れ、美しく命に輝く海辺にする」に取り組んできました。温水川の清掃作業は、ぬかるみがひどく、十分に作業できませんでしたが、冷川は土手周辺の草刈り、雑木の伐採作業、ゴミの除去等を進めてきました。その結果水質が向上したことにより、ホタルの出現数が増してきました。（ホタルは水質の善し悪しのバロメーターと言われています）

関の江海岸の大量のゴミの除去、雑草の草刈り作業を行い、ある程度美しい海岸になり、保護植物も生き生きとしています。しかし、台風などのたびに大量のゴミ、漂流物が打ち上げられるので、継続的に活動していく必要があります。大学との交流会は実施できましたが、小・中学校への出前授業は都合で実施できなかったため、次年度はぜひ実施したいです。地域住民が、私たちの活動に興味、関心を寄せるようになってきており、環境に対する意識が向上してきていると思われます。

- 活動回数／16回
- 活動参加人数／429人
- うちTOTOグループ社員／88人
- ゴミ回収量／1,400kg
- 整備した面積／4,000㎡
- 植物駆除／3,200kg（雑草・雑木等）

現地の声

<参加者>

- ・亀川地区にはこのような自然があるのは、素晴らしいです。今後も出来る範囲で参加したいです。
- ・多くの人たちとボランティア作業ができて楽しいです。やりがいを感じています。
- ・長年にわたる地道な活動により、環境がよくなっています。出来る範囲で続けていかなければなりません。
- ・海のプラスチック問題が深刻になっています。今後このことに力を入れていかなければなりません。



関の江海岸清掃開会式



関の江海岸清掃



関の江海岸清掃

様々な人間活動の変化により、里山・里海が荒廃し、生物多様性が急速に失われ、人類の生存基盤である生態系の危機が迫りつつあります。そのため、地域の自然環境の保全活動を通じ、自然と共生した地域社会の構築を図ることが危急の課題です。自然と共生した持続可能な住み良い郷土を次の世代に伝承するために、国民や一般企業などに対して様々な環境保全に関する情報提供や広報活動および保全・保護活動を実施し、広く公益に寄与することを目的として当法人は2009年に設立されました。

- 大分ウミガメネットワーク
大分県内のウミガメ産卵地保全及び調査を行うボランティアネットワーク
- はざこネイチャーセンター運営事業
宿泊型・自然体験施設の運営。自然体験、漁村民泊、環境教育
- マリンスクール・大分県エココーストキャラバン
海岸環境の保全、海浜生態系再生プロジェクト
- プラスチックフリープロジェクト・ため池保全プロジェクト
閉鎖系水域の再生事業。間越・竜神池、磯崎ピオトープ
- 宇佐神宮ひし形池の生物多様性調査・生物多様性保全プロジェクト
野生動植物の調査研究、アライグマ防除、ウミガメ生態調査、藻場再生、カワツルモ保全



地元の子もたちに見送られ海に帰るアオウミガメ

海浜生態系再生プロジェクト～命をつなぐ海岸の復活をめざして～

■活動地域：大分県佐伯市

■助成期間（年）： 1 2 3

3年事業の最終となる2019年度は、昨年度に引き続き大分県最大のアカウミガメの産卵地である間越海岸において、防砂垣による養浜活動と海岸清掃や保安林整備などの環境保全活動を地域ボランティアと実施し、ウミガメの産卵に敵した環境づくりを行いました。事業におけるイベントでは、参加者の自然環境に対する意識向上のために、ウミガメの生態やそれらを取り巻く環境、プラスチックゴミによる海洋汚染問題についての啓発活動も行いました。3年間の活動により海岸環境は改善され、2年目にはアカウミガメの産卵も確認されました。生態調査から2～3年周期で産卵する傾向であるアカウミガメは、本年度以降も再び産卵が確認されることが期待されます。本プロジェクトにより海の環境に関心を抱くイベント参加者も多く、関係者も更なる事業展開を希望していました。地球規模で注目されている海洋環境を本プロジェクトでは様々な形で取り組むことができ、また情報発信もできたことは大きな成果となりました。

- 活動回数／ 5 回
- 活動参加人数／ 85 人
- ゴミ回収量／ 300kg
- 整備した面積／ 1,900㎡

現地の声

- ・各地域でこのような活動が広がると良いです。もっとたくさんイベントを開催すべきと思います。(参加者)
- ・ウミガメの生態や環境の事を知ることができて良かったです。自分たちも何か社会のために貢献できていると実感できました。(ボランティア大学生)
- ・小さな地区で海岸の環境保全には手が回らないことが多いですが、外からたくさんの方がこの間越に来て、ボランティア活動をしていただいて大変感謝しています。(地区区長)
- ・プラスチックゴミ削減に向けた取り組みを佐伯市から発信していきたいです。(関係者)



定置網に掛かり保護されたウミガメについて解説



砂の飛散を防止するため竹垣を修復



回収したゴミと集合写真

34 一般社団法人 日本スキムボード

〔代表者〕 矢島 清二

スキムボーディングというスポーツが日本人に親しまれるようになって20年近くになりますが、統括する団体がない状況が続いていました。そこで2012年に日本におけるスキムボード界を統括し、代表する団体として一般社団法人日本スキムボード協会が設立されました。スキムボーディングをスポーツとして確立し、普及振興を図り、さらにはスキムボーダーの心身の健全な発達に寄与すること、また自然環境に携わる組織として、持続的な環境保護と事故防止などを目的としています。地域ごとに地域パートナーズを結成し、パートナーズが中心となってスキムボードの体験会や各地域での環境保全活動（現在全国6か所で結成）を行っています。

- ecoプロジェクト:ビーチ、海岸の持続的・継続的な環境保全活動
- SKIMFES
多くの人達にスキムボーディングを知ってもらうためのスポーツ教室、無料体験会。スポーツを楽しむ、生涯スポーツ、レジャースポーツの選択肢の1つとして提案していく活動
- 全日本スキムボード選手権大会
全国規模のスキムボーダーの交流促進、技術の向上、マリンスポーツを通じて自然環境保護への理解を広め、競技を通してスポーツマンとしての人間性を図る
- 指導者講習会
スキムボードに関わる選択肢を増やし、多くのスキムボーダーがさまざまな場面でスキムボードに関われる環境を目指す
- 小冊子「ルール＆マナー」全国無料配布
- J.S.A会員SKIMCLUB:メンバーズ会員制度の運営



スキムフェス（スキムボード体験会）

ecoプロジェクト宮崎～アカウミガメとの共存～

■活動地域：宮崎県宮崎市

■助成期間（年）： 1 2 3

宮崎県一ツ葉海岸は全国でも有名なアカウミガメの産卵地です。近年は減少傾向にあるアカウミガメですが、その主な原因は漂着ゴミであり、子ガメが海に戻る際の障害や、親ガメの誤飲につながっています。少しでも多くの人に産卵地であることやアカウミガメについて知ってもらうために、産卵期前より毎月一度定期海岸清掃を開催しています。後半は、天候に恵まれず、定期海岸清掃日に実施できないことが続きましたが実施日には、スキムボーダーをはじめ、みんなで産卵地の海岸清掃を実施しました。アカウミガメの産卵の目印となる旗が、今年はなくなってしまいましたが、足跡は確認でき、アカウミガメが上陸していることを確認できました。新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、最終の開催が出来ませんでしたが、活動を再開できた際には、少しでも多くのウミガメが上陸し、少しでも多くの子ガメが海に戻れるように宮崎の海を守っていきたいです。

- 活動回数／6回
- 活動参加人数／83人
- うちTOTOグループ社員／14人
- ゴミ回収量／197kg

現地の声

<参加者>

- ・毎回参加するのを楽しみにしています。
- ・台風や高波のあとのゴミの多さにびっくりしました。
- ・ウミガメの誤飲につながるといわれるプラスチック類が非常に多いです。
- ・生活圏から海までの距離がある為、活動を知りませんでしたが、子供と参加して地元の海について体験と学習ができたので良い経験になりました。



eco プロジェクト宮崎



ビーチクリーン



ビーチクリーン

在留日系人の支援活動を行っていた元兵士・土居潤一郎氏が、「日本とフィリピンの両国のためになる活動がしたい」と当団体代表・後藤順久に声をかけ、マングローブの植林を始めました。植林活動を通して、両国の友好を深め、友情と共に苗木を育てていくというのがモットーです。1997年、ネグロス島シライ市で始めたマングローブの植林活動は、ネグロス島の各地やボホール島へと広がりを見せています。マングローブの植林だけでなく、山地での植林や環境教育、エコツーリズム、フェアトレード、有機農業、ゴミの減量化などの住民の生計向上支援に活動の幅が広がっています。

- エコツーリズム
マングローブの植林や有機野菜栽培等を組み入れたスタディーツアーの受け入れ
- 先住民の生計向上支援
有機農業、ゴミの分別・減量化、フェアトレード商品の販売など
- 水源地の保全、僻地や離島の住民への飲み水の供給
- 沿岸部の清掃活動
- 環境教育・持続可能な発展のための教育
- オーガニックカフェの運営
- 国際協力研修センターの運営
草の根の国際協力事業を実施していくことができる若者を育成



有機農業の元となるコンポストを製造

水源の森を守り、学校・地域に水を届けよう

■活動地域：フィリピン 西ネグロス州シライ市、ギバラオン村シバト地区

■助成期間（年）： 1 2 3

シライ市の最上流部にあるシバト地区は水源地ですが、水道設備がないため、住民は水の確保にするため600m離れた川（高低差60m）まで水を汲む汲みに行き、大変苦労しています。一般家庭だけでなく、学校や集会所にも簡易水道がなく、離れたところから運んだ水を甕（かめ）に入れるか、雨水を貯めたりしています。

当プロジェクトにおいて、一般家庭に配水管を敷設しました。

3年間で揚水・配水システム一式が建設され、小学校（生徒数57名）と高校（生徒数51名）、幼稚園（児童数20名）、一般家庭（12世帯）へ水道水が供給されることになりました。地域での生活の利便性を高めるとともに、今後、衛生事情が格段に向上することが期待されます。

- 活動回数／12回
- 活動参加人数／543人
- 受益者数／200人
- 設備設置／貯水タンク1基、配水パイプなど給排水施設1箇所
- 衛生教育／200人

現地の声

<団体代表>

学校の教員からの給配水システムに対する期待が大きかった分、感謝の気持ちが大きいです。平日、教員宿舎に宿泊しているが水がなく、かなり厳しい生活を送っていたと考えます。住民からの賛辞の声も寄せられるほか、州政府、市役所の担当部局から、少数民族の生活基盤の改善に貢献することからお褒めの言葉をいただくことができました。シバト村は少数民族の村として独自の文化を継承しています。そうした文化を守りながら、良好な社会基盤を整備することは有益です。



学校の敷地にも水道を設置



開通したばかりの簡易水道で初手洗い



民族まつりに合わせて行われた竣工式の模様

36 World Assistance for Cambodia and Japan Relief for Cambodia

〔代表者〕 デボラ クリッシャー スティール

1991年パリ和平条約協定の締結後、故シアヌーク元国王の要請を受け、カンボジアの国の復興・再建に協力するために、1993年に「ジャパン・リリーフ・フォー・カンボジア」を設立しました。世界銀行やアジア開発銀行からの助成金と個人などからの寄付金を募り、カンボジア僻地の貧しい農村を中心にカンボジア23州全域に小中学校550校以上を建設し、政府に寄贈しています。また2007年からプノンペンで孤児院・全寮制学生寮を開園し運営しています。

1996年にはプノンペンに病院を設立して無償で100万人以上の治療を行い、医療施設の乏しいプレブヒア州・ラタナキリ州においては診療所を開設し、米国MITの協力をえて遠隔医療を行いました。

- 学校建設（学校建設および建設した学校を寄贈）
- 女子奨学金（貧困により学校へ行けない女子生徒への奨学金支援）
- 教育サポート（英語とコンピュータのトレーニング・プログラムを実施）
- 孤児院支援（HIV / エイズによって両親を失った孤児の生活支援）
- 学校設備支援（井戸・トイレの新規設置・修理、図書館、校庭施設の建設）
- 学校給食菜園（野菜を栽培し、無料で栄養価の高い食事を提供）
- 環境教育（植樹・苗木作り・野菜種配布など、体験型環境教育の実施）
- 幼児教育支援（未就学児に対する教育プログラムの実施）



美術出張授業

カンボジア農村地域の植樹活動及び環境教育

■活動地域：カンボジア ステュングトゥレング州・ラタナキリ州・モンドルキリ州

■助成期間（年）： 1 2 3

カンボジアの農村地域において、当団体が寄贈した小中学校で環境教育を行い、井戸・貯水タンクの新規設置及び、井戸・トイレの修理、植樹、苗木づくり、環境教育を行いました。井戸やトイレの修理は、学校や村の状況や希望を優先して実施しました。

環境教育は、クメール語で作成した資料を各学校の教師に配布して、教師や学校主体で行うようにしました。

学校での水環境を整え、衛生の向上、環境保護の意識付けをこころがけ、雨期（5月から11月）に苗木の作成や植樹活動を村の学校で多くの生徒たちと活動を行いました。

- 活動回数／ 50 回
- 活動参加人数／ 5,000 人
- 受益者数／ 5,706 人
- ゴミ回収量／ 40kg
- 植樹／ 5,100kg（モリンガ・カシュナッツ・マンゴー・ジャックフルーツ）
- 設備設置／ 井戸 4 基、貯水タンク 14 箇所、井戸修理 4 箇所、トイレ修理 22 箇所
- 衛生教育／ 5,000 人

現地の声

- ・貯水タンクができて水が貯めれるようになり、水代がかからなくなりました。（小学校校長先生）
- ・植樹活動は学校の行事として行い、できた苗木は家に持って帰り村のためにもなってもとてもいいです。（小学校教師）
- ・トイレが直ってうれしいです。（中学校2年生女子）
- ・村の人にも作った苗木をあげて喜ばれました。（小学校3年生女子）
- ・井戸を作ってくれたので、水が使えるので学校菜園をつくりました。（中学校校長先生）



小学校で井戸を作成



中学校の校庭で植樹活動



小学校での清掃活動

「生きたい」と願っても大人になるまで生きることが困難な子どもたちや、「今まで夢なんか一度も見たことがない、生きるのに精いっぱいだから」と話す子どもたち。どんなに過酷な状況でも懸命に生きる子どもたちと出会い、「生涯、子どもたちを支える活動を本気でやっていこう」と代表理事である池間が決意して活動が始まりました。

「開発途上国の子どもたちが平和で安らかに暮らしていくことを願い、支援を行い、国際協力を通じた日本の青少年健全育成に貢献すること」を理念に掲げています。1999年に任意団体「NGO沖縄」を発足。2002年、特定非営利活動法人アジアチャイルドサポートとして認可を受け、現在は認定NPO法人として支援活動を拡大して継続しています。

●支援国

ミャンマー、ネパール、カンボジア、インド、フィリピン、日本などアジアを中心に11か国

●支援事業

- ・教育支援事業(学校建設、奨学金制度、学校給食、制服支援、学用品支給など)
- ・保護支援事業(HIV感染者保護施設運営、ハンセン病患者保護施設運営など)
- ・インフラ整備事業(井戸建設、橋建設、発電所建設、バイオガスコンロ建設、トイレ建設など)
- ・災害復興支援事業(東日本大震災、ネパール大地震、熊本・大分大地震、西日本豪雨他)
- ・医療福祉支援事業(地域医療診療所建設、福祉車両導入、福祉機器寄贈など)
- ・青少年健全育成(講演、写真パネル展示会など)



学校給食を食べている生徒（ネパール）

「水で支える暮らし」と「未来へつなげる水環境」

■活動地域：ミャンマー マンドレー地域チャ・プ・ダウン地区ウン・ミン・カン村

■助成期間（年）： 1 2 3

事業地として選定したレッツ・スエ・チャウン村にて、発電機付き大型深井戸・トイレ・水道設備の建設を行ない、滞りなく完了することができました。

井戸から得られる潤沢で安全な水は、水を媒介とした感染症の抑制、水の枯渇に対する不安解消、水汲みで失っていた子どもたちの学習時間の確保につながりました。新設したトイレでは、屋外での排泄による環境への悪影響などの関心を高め、各家庭への普及への一歩となりました。

プロジェクト名「水で支える暮らし」と「未来へつなげる水環境」を実現できたと考えています。

- 活動回数／ 12 回
- 活動参加人数／ 50 人
- 受益者数／ 1,200 人
- 設備設置／ 発電機付き大型深井戸・トイレ 1 基、水道設備 5 箇所、発電機の電気を活用した外灯設置
- 衛生教育／ 262 人

現地の声

<団体スタッフ>

現地のみなさんの「水が透明」「土の味がしない」という言葉は、蛇口をひねれば当たり前に得られる日本では、到底想像できない言葉だと思います。同じ「水」なはずですが、これほどまでに違うのかと思い知らされます。



水道設備での水汲み



大型深井戸と貯水槽



トイレに併設した水道での手洗い

38 Deepak Foundation

〔代表者〕 Dr. Jai Pawar

グジャラート州に本社を置く化学物質メーカーであるDeepakグループのCSRを担うため、ナンデサリ工業地区の労働者およびその家族に医療設備を提供することを目指して1982年に設立された非営利団体です。その後、インド全土に活動を拡大しています。設立以来、主に貧しい家庭の女性および子どもに対する母子医療サービスに取り組んできましたが、現在では、生計、栄養、医療、育児、教育、能力開発・訓練、女性のエンパワメント、天然資源管理ベースの生計など、幅広いセクターで活動しています。

グジャラート州に本社を置く化学物質メーカーであるDeepakグループのCSRを担うため、ナンデサリ工業地区の労働者およびその家族に医療設備を提供することを目指して1982年に設立された非営利団体です。その後、インド全土に活動を拡大しています。設立以来、主に貧しい家庭の女性および子どもに対する母子医療サービスに取り組んできましたが、現在では、生計、栄養、医療、育児、教育、能力開発・訓練、女性のエンパワメント、天然資源管理ベースの生計など、幅広いセクターで活動しています。



物語について授業している様子

Water Conservation

■活動地域：インド グジャラート州 ハロル・カロール地区 ティンビ村、ラダンプル村

■助成期間（年）： 1 2 3

農業用ため池2カ所（選定村落ごとに1カ所）の造成をしました。
プロジェクト対象の村落では、植林を実施しました。農業用の水保全および灌漑の放水システム利用を周知させるため地域でのトレーニングおよび村落での会合の実施。
水保全管理に関する地域社会組織(CBO)のキャパシティの向上や現地訪問により、水保全に関するトレーニングを行いました。
対象村落におけるMIS点滴システム（噴霧システム）の設置し、ため池周辺および他の適切な場所に高木・低木を植えることによる村落の緑地面積の増加。対象村落内の井戸水位のモニタリングを行いました。

- 活動回数／6回
- 活動参加人数／368人
- 受益者数／278人
- 植樹／1,130本（マンゴー、グアバ、ジャムン、レモン、ドラムスティック、ピラ（太陽神）、アムラと森の木
- 整備した面積／13,275㎡
- 設備設置／農業池2箇所、噴霧システム7基

現地の声

<受益者>

噴霧システムの設置後、Ramansinhは、「噴霧システムは、私の農場では大変有益なものと感じています。設置前には灌漑に1時間かかっていましたが、設置後は15分から20分に短縮されました。これは大きな違いです。噴霧システムの設置により、電気料金と野菜の売上にも大きな差が出ました。野菜で成功すれば、キマメやコロハなど、農場の他の作物の生産についても噴霧システムに移行したいと思います。



コミュニティトレーニングのため訪問



植樹活動



井戸水の測定

39 モザンビークのいのちをつなぐ会

【代表者】榎本 恵

第12回

3年目

海外

「モザンビーク人によるモザンビークのためのQOLの向上」を目的に、2013年に当会を設立しました。世界で最貧困国の一つとされるモザンビーク共和国において、貧困度や乳幼児死亡率の高い北部カーボデルガド州・ペンバのスラム地区に事務局を構え、スラムの青年有志とともに、教育、公衆衛生、水環境整備、農業、国際相互理解活動を実施しています。

真の草の根活動を現地の人たちと行うことをコンセプトに、日本や諸外国の知恵や技術を注ぎつつ、一方で先進国の論理と開発途上国のニーズのジレンマが生じないように配慮しながら、貧困層の人々が自立・創造的な暮らしを送れることを目指して活動を展開しています。

●教育活動

スラムの学び舎・寺子屋での教育活動(毎日実施)

●公衆衛生活動

公衆衛生教育(3年間実施)、ペンバ環境美化活動(3年間実施)

●水環境活動

井戸とトイレの設置:手掘り浅井戸28箇所、トイレ35箇所、深井戸1箇所

●食活動

欠食児童への配食システムの整備

●農業活動

有機農業の実施:農村2箇所で開催(イスラム過激派テロ活動のため現在、農村アソシエーションに一任)

●国際相互理解推進活動

アフリカ・マコンデ族の音楽と文化交流ツアー:日本及び欧州約280公演の実績



スラムの学び舎・寺子屋での日本の青年11名による演劇ワークショップ

モザンビーク・ペンバにおける公衆衛生プロジェクト

■活動地域:モザンビーク共和国カーボデルガド州ペンバ

■助成期間(年): 1 2 3

子どもたち待望の公衆衛生教室のスタートとなり、石鹸や歯ブラシ、歯磨き粉、コップ等、身ざれいにするための生活必需品がもらえるので、子どもたちの期待が最も大きな活動となっています。

一方、2019年4月末に、モザンビーク共和国観測史上最大級かつ、カーボデルガド州初となるサイクロンがペンバに上陸、12月末にも熱帯低気圧により暴風雨が発生し、寺子屋に通う子どもたちの家も多く破壊されました。サイクロン上陸後からコレラ感染が増え始めましたが、当会の公衆衛生活動の効果もあり、寺子屋および事務局に通う子どもたちのコレラ罹患は、ゼロでした。これは公衆衛生教育の一番の成果といえます。

また、当初の浄水器の配布を慢性的かつ危機的な水不足のため「寺子屋への井戸の設備整備」に切り替え、活動を実施しました。ペンバは岩盤が硬い地区があるため、掘削期間が3週間もかかりましたが、想像以上の大反響で、水不足に苦しむ住民をサポートする大きな活動となりました。

- 活動回数/ 11回
- 活動参加人数/ 343人
- 受益者数/ 800人
- 設備設置/ 電動式井戸(50mの深井戸) 1基
- 衛生教育/ 343人

現地の声

- ・毎日、水を探しに行かなくてよかったので、とても助かります。(20代女性)
- ・モスクで水を購入していましたが、モスクの井戸水は塩水なので飲めないのですが、寺子屋の井戸水は飲むことが出来るし、料理にも使えるので良かったです。そして、タダなので、すごいと思います。(30代女性)
- ・井戸水なのに美味しいので驚きました。(10代男性)



設備整備した井戸水を利用するナティティ地区の住民



公衆衛生活動の歯磨き教育



公衆衛生活動の爪切り教育

助成先団体一覧(国内)

	No.	活動地	団 体 名
北海道	1	北海道	ばん ばん ばんぶきん
	2	北海道	NPO法人 山のない北村の輝き
	3	北海道	NPO法人 森をたてようネットワーク
東北	4	青森	小川原湖自然楽校
	5	青森	NPO法人 白神山地を守る会
	6	岩手	NPO法人 わが流域環境ネット
	7	岩手	NPO法人 紫波みらい研究所(代表団体)
	8	宮城	梅田川せせらぎ緑道を考える会
	9	宮城	NPO法人 川崎町の資源をいかす会
	10	宮城	NPO法人 杜の都仙台ナショナルトラスト
	11	宮城	カワラバン
	12	宮城	宮城県淡水魚類研究会
	13	宮城	NPO法人 リアスの森応援隊
	14	山形	鮎川村自然保護委員会
関東	15	茨城	NPO法人 Water Doors
	16	茨城	御前山ダム環境センター
	17	茨城	NPO環～WA
	18	栃木	わたらせ未来基金
	19	群馬	NPO法人 緑の家学校
	20	群馬	さなざわ里山だんだんの会
	21	埼玉	NPO法人 比企自然学校
	22	千葉	NPO法人 ふるさと生きがいづくり
	23	千葉	NPO法人 印旛沼広域環境研究会
	24	千葉	NPO法人 印旛野菜いかだの会
	25	千葉	八千代市はたるの里づくり実行委員会
	26	千葉	NPO法人 しろい環境塾
	27	千葉	はたる野を守るNORAの会
	28	千葉	NPO法人 森のライフスタイル研究所
	29	東京	NPO法人 森のライフスタイル研究所
	30	東京	ぜんかんれん
	31	東京	白子川源流・水辺の会
	32	東京	DEXTE-K(でいてくつ)
	33	東京	NPO法人 荒川クリーンエイド・フォーラム
	34	神奈川	浜っ子トラストチーム
	35	神奈川	NPO法人 ヨコハマ倉造空間
	36	神奈川	ほのほのピーチ茅ヶ崎
	37	神奈川	NPO法人 おさかなポストの会
	38	神奈川	NPO法人 海の森・山の森事務局
	39	神奈川	一般社団法人サーフライダーファウンデーションジャパン
	40	神奈川	NPO法人 小網代野外活動調整会議
中部	41	新潟	NPO法人 ねっとわーく福島潟
	42	新潟	高根フロンティアクラブ
	43	新潟	NPO法人 新潟水辺の会
	44	富山	福光ふるさとの森を再生する会
	45	富山	金山里山の会
	46	石川	金沢エコライフ事業実行委員会
	47	福井	アマモサポーターズ
	48	山梨	NPO法人 えがおつなげて
	49	山梨	NPO法人 セロファクトリー
	50	長野	ステップアップゼミ
	51	岐阜	NPO法人 MY

	No.	活動地	団 体 名
中部	52	岐阜	大富山を愛する会
	53	静岡	NPO法人 浜松NPOネットワークセンター
	54	静岡	NPO法人 はるの山の楽校
	55	愛知	ネイチャークラブ東海
	56	愛知	虹のとびら
	57	愛知	一般社団法人 ClearWaterProject
	58	三重	一般社団法人 海つ子の森
近畿	59	滋賀	NPO 法人 旅するおさかなサポーター
	60	滋賀	NPO 法人 夢工房
	61	滋賀	清水川湧遊会
	62	滋賀	たかし有機農法研究会
	63	滋賀	神山区いい顔づくり委員会
	64	滋賀	NPO 法人 家棟川流域観光船
	65	京都	水源の里連絡協議会
	66	京都	NPO 法人 プロジェクト保津川
	67	京都	川と海つながり共創プロジェクト
	68	京都	はたる祭改善プロジェクト委員会
	69	大阪	NPO 法人 花だんごネットワーク
	70	大阪	NPO 法人 ふくてつく
	71	大阪	NPO 法人 環境教育技術振興会
中国	72	大阪	公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会
	73	兵庫	「峠池」を考える会
	74	兵庫	武庫川の治水を考える連絡協議会
	75	兵庫	松蔭高等学校 Blue Earth Project
	76	兵庫	高砂海浜公園海辺の保全集いの会
	77	兵庫	NPO 法人 アンビシャス コーポレーション
	78	奈良	景観ボランティア明日香
	79	奈良	一般社団法人 自然再生と自然保護区のための基金
	80	和歌山	NPO 法人 ゴミんご・ゴミ拾いネットワーク
	81	鳥取	山王さん周辺活性化協議会
四国	82	島根	NPO 法人 飯梨川再生ネット
	83	広島	酒屋地区自治会連合会
	84	広島	大羽谷川流域の環境を考える会
	85	広島	NPO 法人 もりメイト倶楽部 Hiroshima
	86	広島	京橋川かいわい あしがるクラブ
	87	徳島	NPO 法人 川塾
九州	88	愛媛	宮前川クリーンネット
	89	愛媛	エコ・ライフ夢幻村
	90	愛媛	久保・肱川源流を想う会
	91	高知	(社) 西土佐環境・文化センター 四万十楽舎
	92	高知	こうち森林救援隊
	93	高知	しまんと黒尊むら
	94	高知	大正中津川「やまびこ会」
	95	高知	橘若者会
	96	福岡	中谷地区まちづくり協議会
	97	福岡	NPO 法人 つやざき千軒いきいき夢の会
九州	98	福岡	アクアリング委員会
	99	福岡	火山里山保全交流会
	100	福岡	NPO 法人 遠賀川流域住民の会
	101	福岡	香月・黒川 はたるを守る会
	102	福岡	東朽網校区まちづくり協議会

助成先団体一覧(海外)

	No.	活動地	団 体 名
九州	103	福岡	NPO 法人 改革プロジェクト
	104	福岡	横代校区まちづくり協議会
	105	福岡	津古ふるさと会
	106	福岡	笹尾川水辺の楽校運営協議会
	107	熊本	やまんたろ♥かわんたろの会
	108	熊本	どんぐりプラットホーム
	109	熊本	次世代のためにがんばる会
	110	大分	佐伯広域森林組合
	111	大分	NPO 法人 水辺に遊ぶ会
	112	大分	冷川のホタルと親しむ会
	113	大分	関の江海岸の自然を守る会
	114	大分	NPO 法人 おおいた環境保全フォーラム
	115	宮崎	MFV 会
	116	宮崎	高千穂森の会
	117	宮崎	一般社団法人 日本スキムボード協会
	118	宮崎	NPO 法人 みやざき技術士の会
	119	鹿児島	郡山マグニチュード21
	120	沖縄	宜野湾の美ら海を考える会
	121	沖縄	おきなわ環境塾
	122	沖縄	NPO 法人 珊瑚舎スコーレ

	No.	活動地	団 体 名
海外	1	中国	NPO 法人 環境資源保全研究会
	2	インドネシア	日本インドネシア NGO ネットワーク
	3	バングラデシュ	NPO 法人 日本下水文化研究会
	4	ベトナム	社団法人 国際海洋科学技術協会
	5	ミャンマー	認定 NPO 法人 ブリッジ エーシア ジャパン
	6	中国	ひふみや〔自然農法〕
	7	ネパール	NPO 法人 ミランクラブジャパン
	8	フィリピン	NPO 法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
	9	ケニア	
	10	フィリピン	NPO 法人 イカオ・アコ
	11	カンボジア	World Assistance for Cambodia and Japan Relief for Cambodia
	12	モザンビーク	モザンビークのいのちをつなぐ会
	13	ネパール	NPO 法人 ウォーターエイドジャパン
	14	東ティモール	
	15	インド	
	16	ミャンマー	認定 NPO 法人 アジアチャイルドサポート
	17	インド	認定 NPO 法人 日本水フォーラム
	18	インド	Deepak Foundation
	19	ベトナム	公益財団法人 プラン・インターナショナル・ジャパン
	20	スーダン	認定 NPO 法人 ロシナンテス
	21	フィリピン	NPO 法人 ハロハロ
	22	パキスタン・イスラム	認定 NPO 法人 難民を助ける会
	23	インド	認定 NPO 法人 ICA 文化事業協会
	24	ケニア	認定 NPO 法人 道普請人
	25	ウガンダ	
	26	インドネシア	公益財団法人 オイスカ

過去の助成状況

第1回	2005年 10月～2006年 9月	総額 1,090万円(12団体)	第9回	2014年 4月～2015年 3月	総額 1,300万円(25団体)
第2回	2006年 10月～2007年 9月	総額 1,560万円(12団体)	第10回	2015年 4月～2016年 3月	総額 1,430万円(22団体)
第3回	2007年 10月～2010年 9月	総額 8,051万円(29団体)	第11回	2016年 4月～2017年 3月	総額 1,556万円(24団体)
第4回	2008年 10月～2009年 9月	総額 1,200万円(16団体)	第12回	2017年 4月～2020年 3月	総額 9,531万円(35団体)
第5回	2009年 10月～2010年 9月	総額 1,102万円(18団体)	第13回	2018年 4月～2021年 3月	総額 1,752万円(10団体)
第6回	2010年 10月～2011年 9月	総額 751万円(10団体)	第14回	2019年 4月～2022年 3月	総額 2,465万円(10団体)
第7回	2012年 4月～2013年 3月	総額 980万円(16団体)	第15回	2020年 4月～2023年 3月	総額 2,656万円(10団体)
第8回	2013年 4月～2014年 3月	総額 1,007万円(20団体)			

※第3回、第12回は、TOTO創立周年記念事業として助成金を増額。

あしたを、ちがう「まいにち」に。
TOTO

TOTO株式会社

(TOTO水環境基金事務局)

〒802-8601 福岡県北九州市小倉北区中島2-1-1

TEL:093-951-2224 FAX:093-951-2718

(2020年8月発行)

